

平成29年度版
京都市の学校評価システム

平成28年度実施状況

— 「自らを振り返り」「互いに高め合う」 —

平成29年9月

京都市教育委員会

目 次

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方	2
2 重点項目	5
3 実施状況	5
4 学校評価関係年表	18

II 学校での取組事例

1 京都市立仁和小学校	22
2 京都市立桃山南小学校	35
3 京都市立桃山中学校	47

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、学校運営の組織的・継続的な改善，保護者・地域等の参画による学校づくり，教育水準の質の向上等を目的に，学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都市方式」での学校評価を実施している。

制度の導入にあたり，平成13年度に校長会との共同プロジェクトを立ち上げ，学校評価の試行実施を開始した。その後，2年間の議論と実践をもとにプロジェクトのまとめ「今，学校にもとめられているもの」を発行すると同時に「京都市学校評価ガイドライン」を策定し，学校と家庭・地域が，お互いが足りないところを補い合い，互いに高め合う双方向の信頼関係を築くことを目指す学校評価を平成15年度から全校で実施した。

○その後の経過

H16年	全校での評価結果の公表
H18年12月	学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会の設置
H19年4月	「京都市学校評価ガイドライン（平成15年度版）」の改訂（第2版）
H19年6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行
H19年7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 (学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正)

この間，学校評価活動を深化させながら，PDCAサイクルによる「学校評価システム」の着実な浸透を図ってきた。また，国においても，学校評価に関する法令の改正が行われ，「学校による自己評価の実施とその公表，教育委員会への報告」が義務化されるとともに，「自己評価結果に対して保護者，地域の方々など学校関係者による評価を得ること」も努力義務化された。

こうした状況を踏まえ，平成21年6月には，次の4点を柱とした「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」を策定し，学校評価の充実に努めている。

(1) 学校評価をみんなのものにする

各学校では，全教職員が学校教育目標とその具現化に向けた実践を行うと同時に，評価項目・指標・評価結果を共有し，「自己評価」を今後の教育活動の改善に結び付けるとともに，保護者・地域の方々による「学校関係者評価」やそれらの評価結果の公表を行っている。こうした取組を通して，学校評価は，教職員はもとより，保護者・地域の方々も含めた「自分ごと」となり，学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの学校生活を「よりよいもの」とする上で，重要な役割を担っている。

(2) 当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては，教職員や学校関係者が，よりよい学校づくりを進める当事者としての意識を持って評価することを基本としている。このため，学校関係者による評価においても「学校の自己評価結果に対する評価」に加え，「学校改善に向けた支援策」についても協議していただくことにしている。

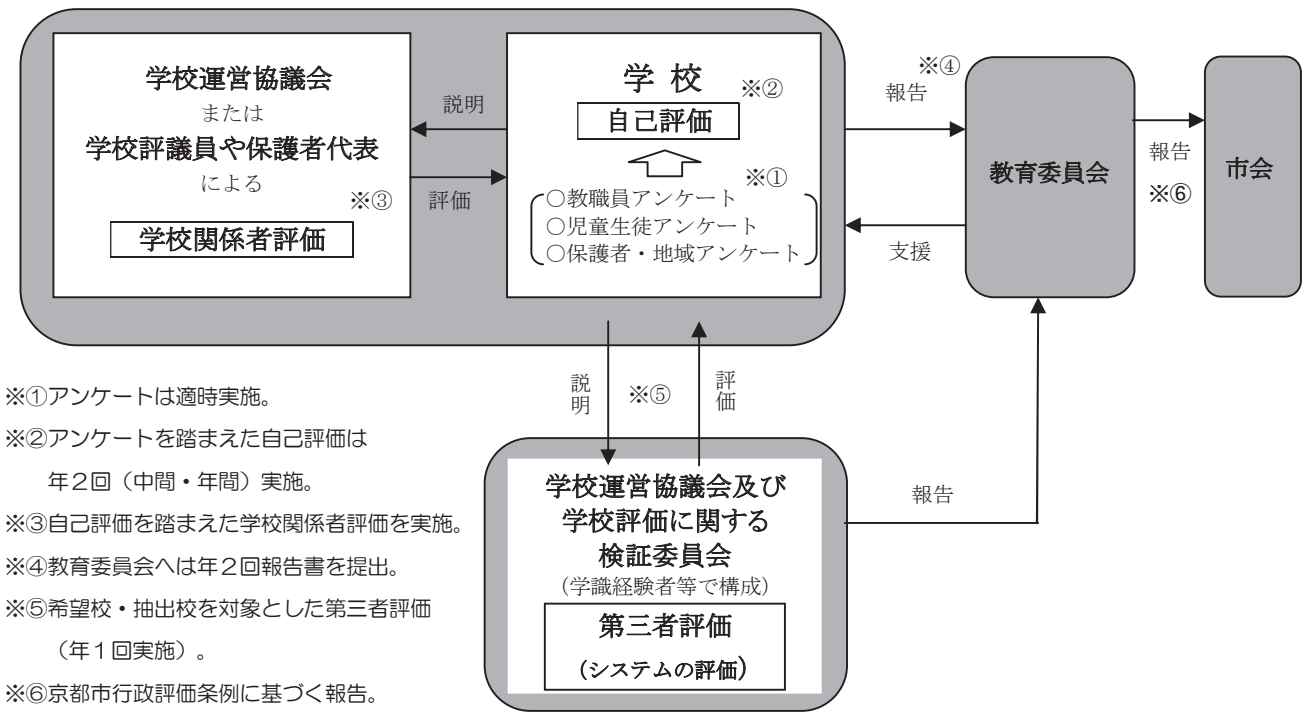
(3) 自らを振り返り，互いに高め合う

本市では，学校評価システムの導入当初から，保護者・地域等が学校を一方向的に評価するのではなく，それぞれがそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」そして，「子どもたちは，自らの学習に向かう学びの姿勢を振り返る」など，「それぞれが自らを振り返る」という視点を持つことにより，お互いが足りないところを補い合い，互いに高め合う双方向の信頼関係の構築を目指し，取り組んでいる。

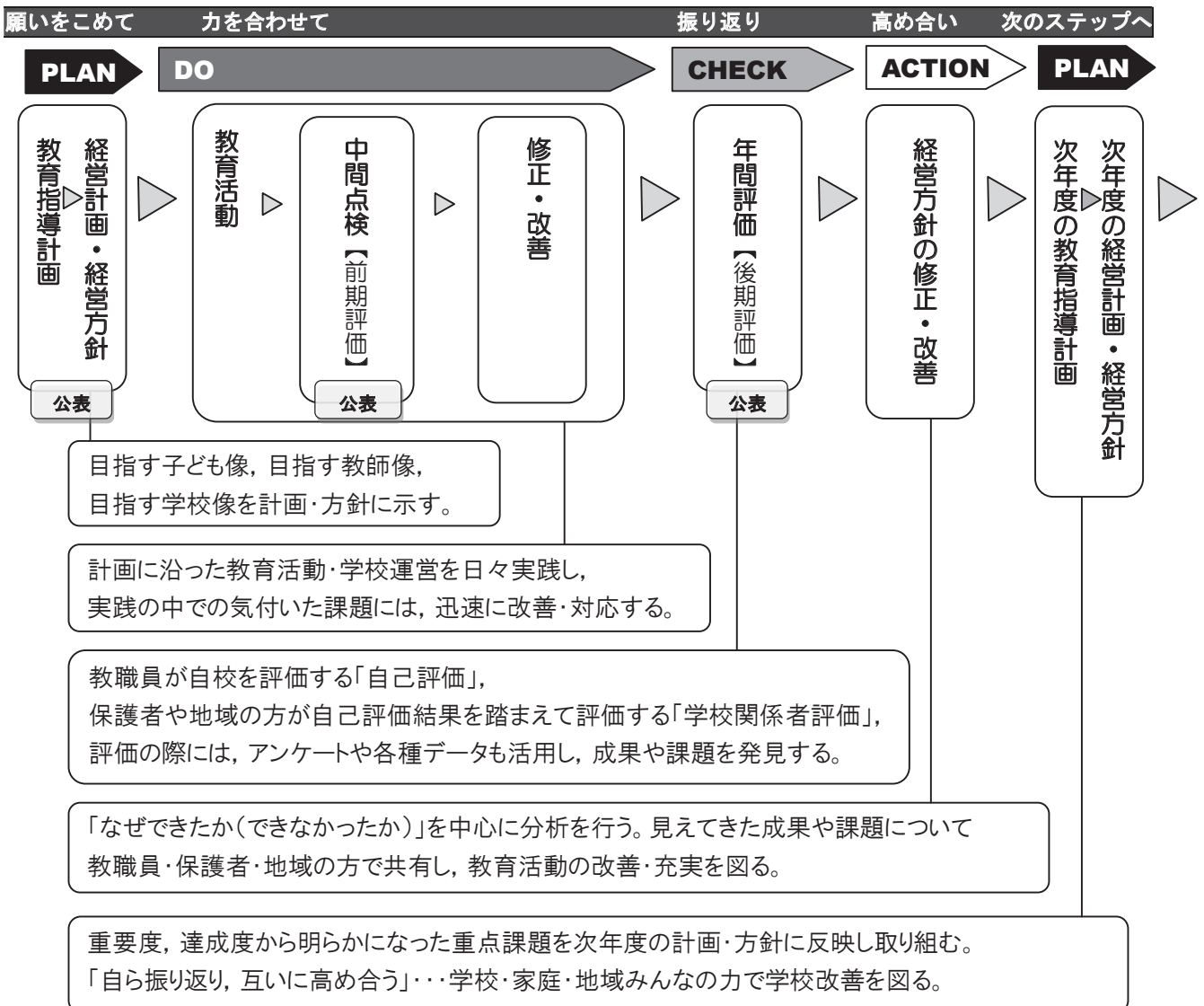
(4) 学校の魅力を発見し，発信する

学校評価を実施することで把握した学校の課題を，その克服・改善に向けた取組に結びつけるためには，学校の魅力が見える評価手法を用いることが重要である。本市では，アンケート作成・集計・分析が可能な「学校評価支援システム」（本市独自作成）を活用し，自校の魅力や課題が一目で分かる魅力・課題発見型（ニーズ調査型）のアンケート手法を導入している。これらの結果の概要は全校がホームページで公開するとともに，学校だより等でも保護者や地域に積極的に情報発信している。

《自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図》

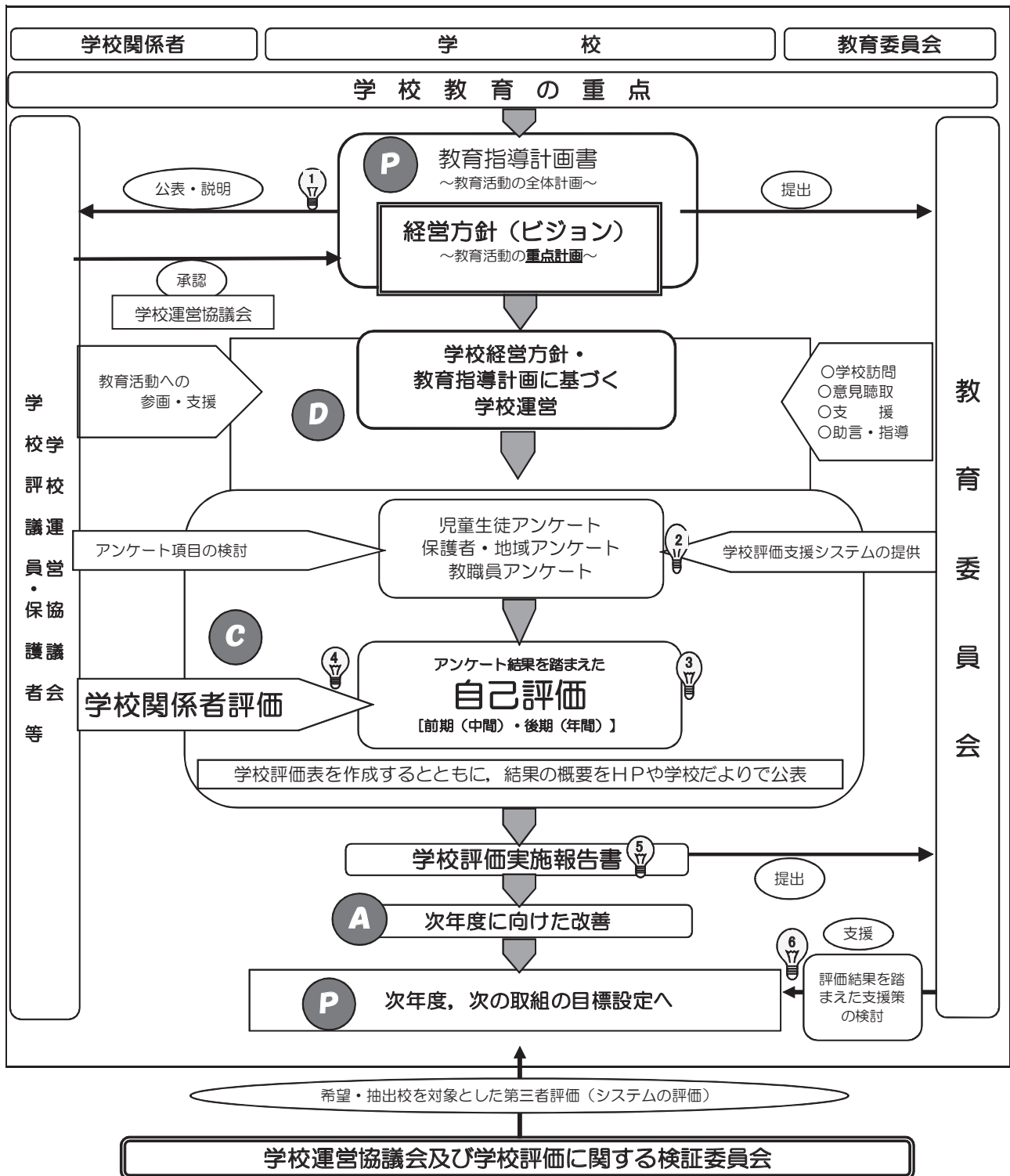


《PDCAサイクルに基づく学校評価の流れ》



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

- 1 学校経営方針，学校評価年間計画，評価項目の策定，公表
- 2 学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ，評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と，課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

2 重点項目

平成28年度は、これまでの取組の上に立って、学校評価の一層の充実を目指し、以下の4点を主な取組とした。

- (1) 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による学校訪問（第三者評価）の実施（2中学校ブロック、計6校を訪問）。学校教育活動や学校評価、学校運営協議会の取組に加え、本市において平成23年度から全中学校区で実践している小中一貫教育の取組についても評価の観点とするため、前年度に引き続き、中学校ブロック単位での訪問を実施。
- (2) 児童生徒や保護者・地域、教職員を対象としたアンケートについて、各校がより効率的かつ多面的に評価・分析を行えるよう、教育委員会においても、アンケートの作成・集計・分析するための「京都市版学校評価支援システム」を運用し、支援。
- (3) 文部科学省の委託を受け、花山・洛西・桃山の3中学校ブロックを中心に、小中一貫教育等に即した小中合同の学校運営協議会の設置などによる学校評価システムの構築について研究。
- (4) 各校で作成する「学校評価実施報告書」において、各校が設定する評価項目に加え、毎年度教育委員会で定める「学校教育において重視する視点」（学校教育の重点に記載）を評価項目に設定。全ての学校で、重点的に取り組むべき事項についての成果や課題の把握に努め、学校教育活動の充実を図るとともに、京都市としての取組の評価も行う。

3 実施状況

(1) 「自己評価」の実施状況

全ての学校で、保護者、児童生徒によるアンケートを実施するとともに、それらをもとにした「自己評価（学校教育法施行規則第66条で平成19年から義務化）」を行った。それらの結果については、各学校において学校評価を特集した学校だよりやホームページ等で公表した。

(2) 「学校関係者評価」の実施状況

「学校関係者評価（学校教育法施行規則第67条で平成19年から努力義務化）」については、全ての学校で、「学校運営協議会」又は「学校評議員が一堂に会する場」で学校から「自己評価の結果」と「学校としての改善策」を説明したうえで、学校運営協議会委員や学校評議員から、意見だけではなく、子どもたちや学校の課題に対する支援策についても言及していただくこととしており、課題に即した支援の充実や取組の見直しが進められている。

具体的には、自校の教育目標や取組全般を理解した上での、読み聞かせボランティア、地域見守り隊、総合的な学習の時間への地域ボランティアの関わりの充実等学校としての取組の他、読書に関する意識を高めるための親子読書といった家庭での取組、地域行事で重点的に子どもを活躍させるようにするといった地域での取組など、様々な面での支援の充実・改善に繋がっている。

(3) 学校評価の実施にあたって

全ての学校に対し、「評価結果の公表方法及び内容の工夫」や「学校評価の効果」、「実施にあたっての課題」についてのアンケートを実施し、以下のとおりの回答を得た（複数回答可）。

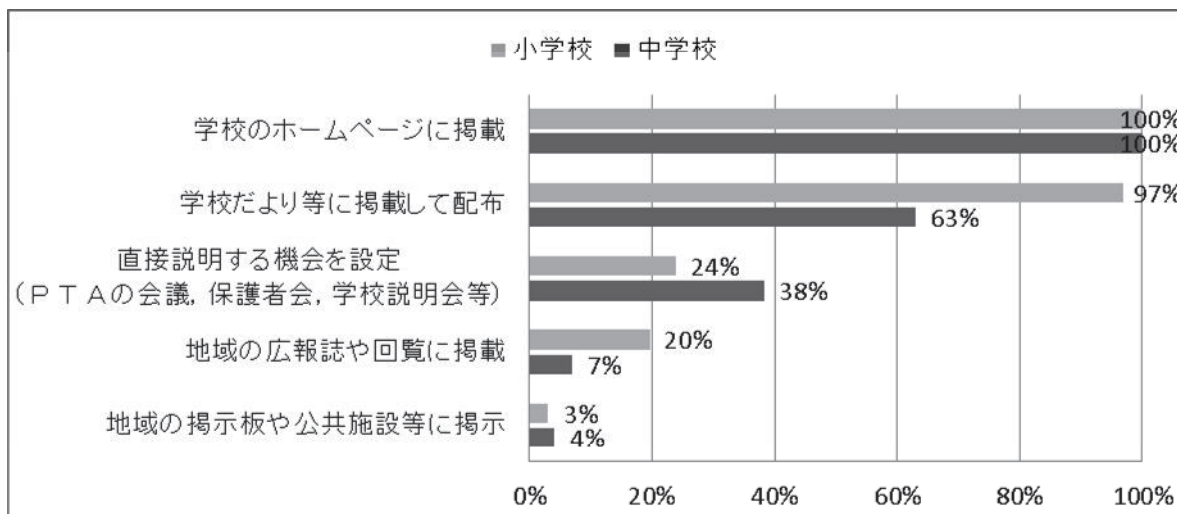
ア 公表方法や内容の工夫について

評価結果の公表については、全校で学校評価の結果をホームページに掲載し、さらにほぼ全ての小学校が学校だより等へ掲載しているほか、直接説明する機会を設けたり、地域の掲示板に掲載したりするなど、複数の方法を活用して、それぞれの学校で保護者や地域の方々に対して積極的な発信を行っている。さらに、多くの学校では、評価結果の分析や課題等についての説明を記載するとともに、グラフを使って結果を示したり、児童生徒・保護者・教職員への同内容のアンケート結果を比較したりする等の方法を用いて、わかりやすい発信に努めている。

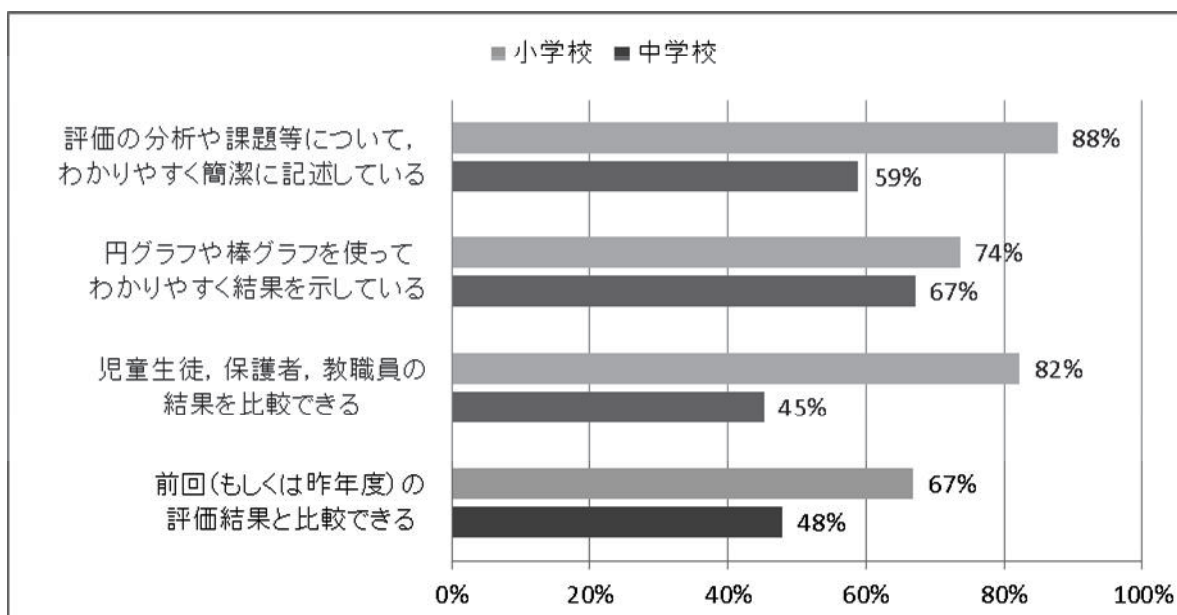
また、学校評価を通じて判明した「学校や子どもたちの課題」を共有・解決するための工夫として、学校では、課題を職員会議で教職員に説明して共有し改善策を話し合ったり、学校運営協議会や学校評議員の会で説明し支援を求めるなど、P D C Aサイクルに基づき、地域や教職員が一体となった学校改善に学校評価を生かす取組を実施していることが見受けられる。

さらに、評価の分析結果は、多くの中学校ブロックにおいて、同一ブロック内の小学校、中学校間で共有されており、義務教育9年間を連続した学びの場としてとらえる小中一貫教育の視点で評価結果をとらえる取組が進められている。

評価結果の公表方法についての工夫



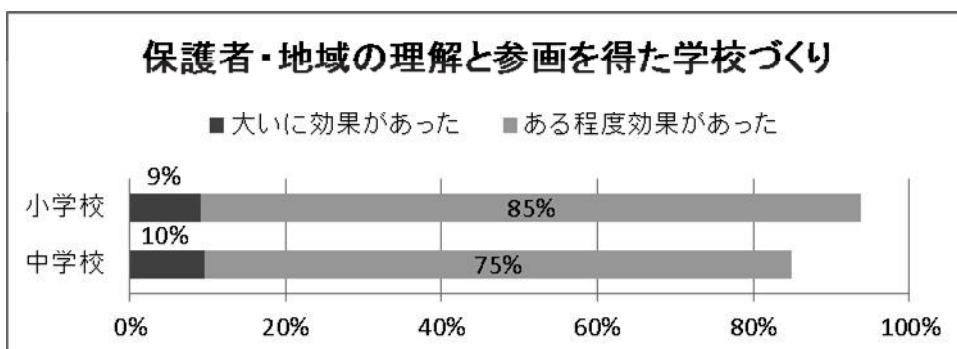
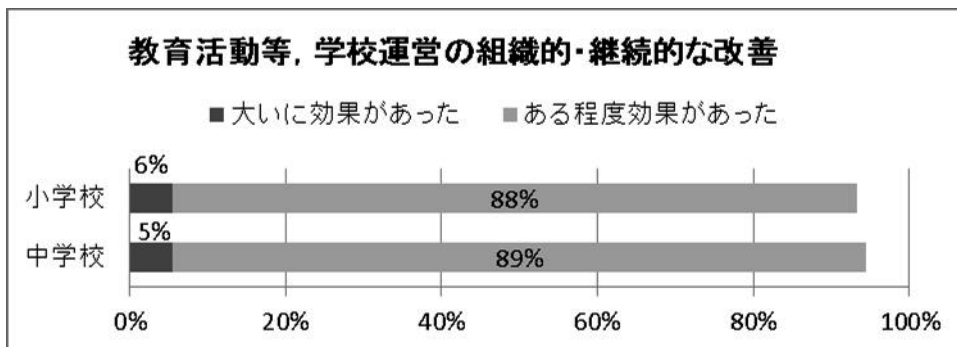
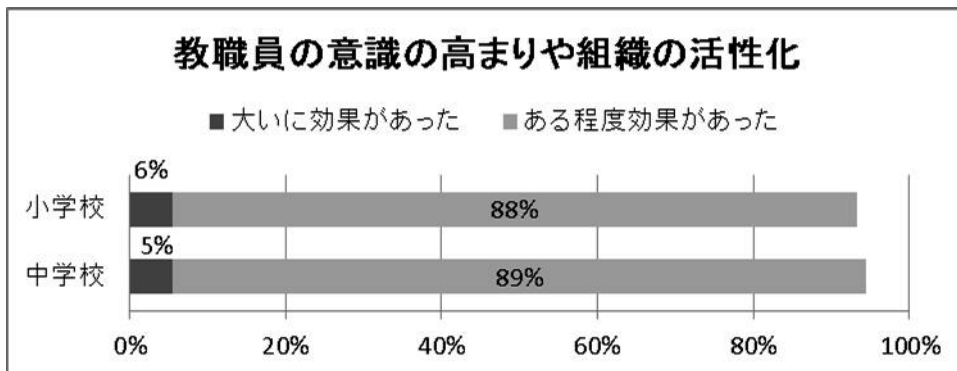
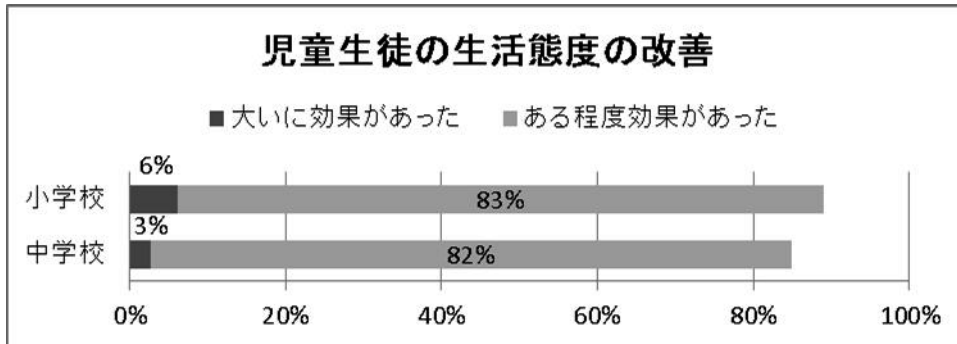
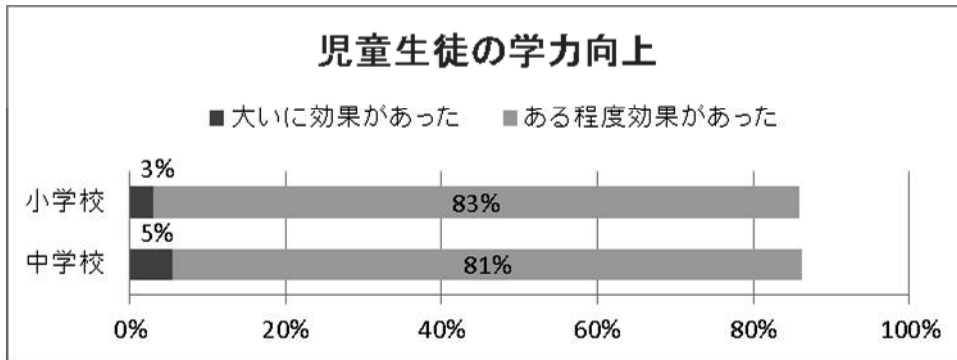
評価結果の公表内容についての工夫



イ 効果について

学校評価の効果については、児童生徒の学力向上や生活態度の改善、教職員の意識の高まりや組織の活性化、教育活動等学校運営の組織的・継続的な改善、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりの各観点において、それぞれ約9割の学校で効果があるとの結果が出ている。学校評価を軸として、子どもたちの課題を適切に捉え、学校・保護者・地域が一体となって子どもたちの学びと育ちを支える仕組みが、学校で定着しているといえる。

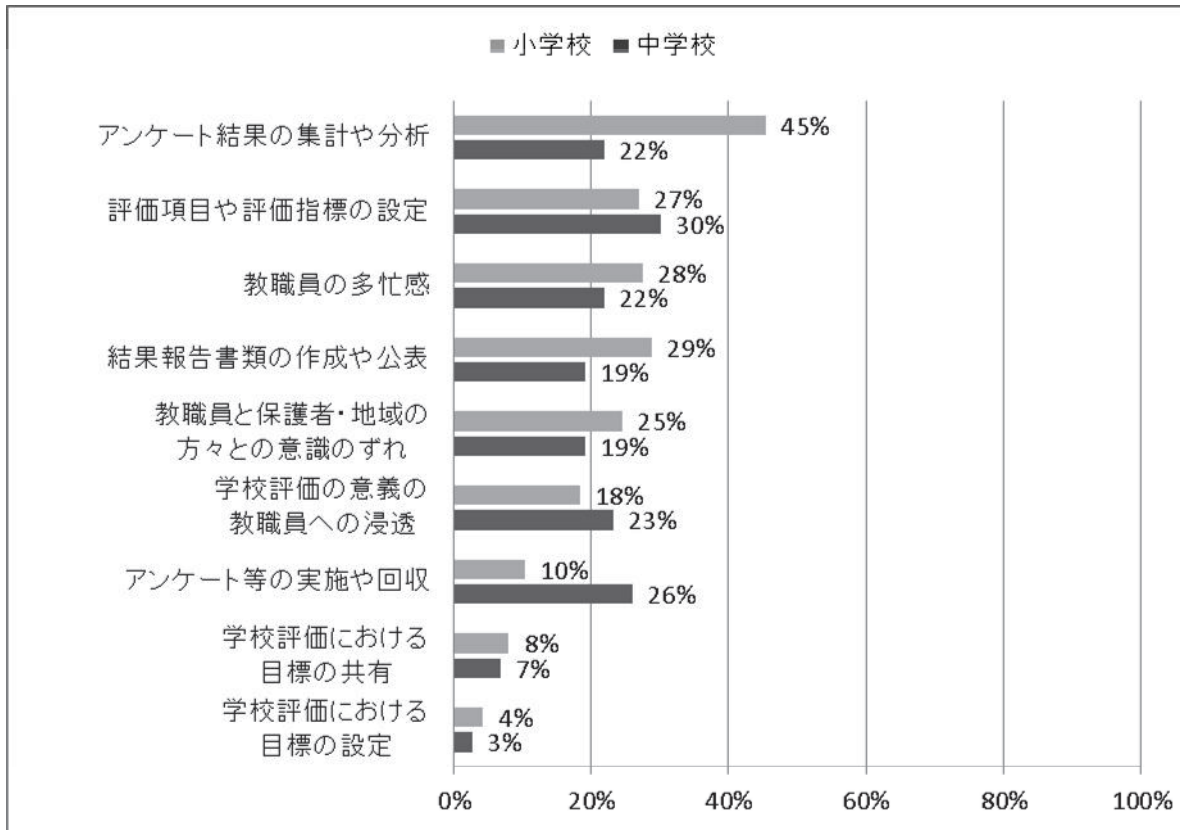
学校評価の効果について



ウ 課題について

学校評価の課題として、アンケートの集計や分析、結果報告書類の作成等の作業が煩雑と感じる学校が比較的多い傾向にあり、平成26年度から導入している本市独自の学校評価支援システムの活用など、事務的な側面での負担軽減に向けた取組を進め、評価の分析結果や関係者間での課題の共有など、本質的な意味での学校評価の充実を図っているところである。また、保護者・地域アンケートの回収率は約8割であり、今後も引き続き、学校評価の意義について説明しつつ、学校・家庭・地域の信頼関係を基礎に、学校評価の取組を推進する。

学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



(4) 「第三者評価」等の実施状況

ア 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」について

学校評価の実施状況や本市が進める学校評価システムの客観性・信頼性を検証するとともに、第三者的な視点で学校教育の質の向上に繋げるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下「検証委員会」という）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

【検証委員会委員（28年度）敬称略・役職等は委員任命当時のもの】

- 天笠 茂 千葉大学特任教授
- 加藤 明 関西福祉大学学長
- ◎小松 郁夫 流通経済大学教授
- 塩尻 マユミ 元向島南小学校長・元地域教育専門主事室副室長
- 田中 佳代 P T A代表（京都市小学校 P T A連絡協議会会計）
- 内藤 隆文 公募委員（嵯峨中学校学校運営協議会委員）

西川 信廣	京都産業大学教授	
堀内 孜	兵庫教育大学特任教授	
高橋 由記子	京都市立西院幼稚園長	
山田 小百合	京都市立九条弘道小学校長	
村田 博哉	京都市立京都御池中学校長	
中東 朋子	京都市立桃陽総合支援学校長	
佐藤 卓也	京都市教育委員会学校指導課長	※ ◎は委員長, ○は副委員長

イ 平成28年度 検証委員会開催状況

① 第1回会議

- ・日時 平成28年11月4日(金) 15:30～
- ・会場 京都市総合教育センター1階 第2研修室
- ・委員 小松委員長, 加藤委員, 塩尻委員, 内藤委員, 堀内委員, 山田委員, 村田委員, 佐藤委員
- ・議題 学校評価及び学校運営協議会について
検証委員会の学校訪問について
- ・議事概要

(学校評価及び学校運営協議会について)

- 教員の多忙感がある中で, 教員が無理なく地域や保護者と連携をしていくためには, 地域や保護者の後押しが大事。
- 学校が抱えていた生徒指導上の課題をPTAや地域にオープンにすることで, 学校と地域・保護者が子どもたちの課題を共有することができ, 学校にとって前向きな状況となった事例がある。
- 学校評価・学校運営協議会という制度の必要性について今一度立ち返る時期である。学校評価は「学校が自立するための手立て」として生まれたことを忘れてはいけない。それぞれの学校が, 自校にとって最適の教育を推進するための手立てとして学校評価・学校運営協議会を活用できる環境の担保をすべき。
- 京都市が, 学校評価や学校運営協議会の質的向上に視点を置いているのは意義深いことである。学校評価のシステムが, 学校改革や授業改善のために真に活用されるために, 検証委員会も質的向上の視点から活動を進めるべきである。
- 地域が学校の支援をすることで教育活動の幅が広がってきている中, その支援が子どもたちの力につながっているかを評価し改善に繋げていくための検証をすべきと考える。

(検証委員会の学校訪問について)

- 桃山中学校区には, 校下に桃山小学校, 桃山東小学校, 桃山南小学校の3小学校がある。広い地域で各小学校の状況が異なる中, 現在取組を推進している小中連携はもちろんのこと, 小学校の段階で中学校進学時の子どもの姿を見据えた小小連携の取組が, 今後重要である。
- 京都市の小中一貫教育の課題として, 1つの小学校から複数の中学校へ進学する学区を含む4中学校9小学校(北野中学校, 朱雀中学校, 中京中学校, 西ノ京中学校, 大將軍小学校, 仁和小学校, 洛中小学校, 朱雀第一小学校, 朱雀第二小学校, 朱雀第四小学校, 朱雀第六小学校, 朱雀第七小学校, 朱雀第八小学校の計13小・中学校)からなる, 通学区域が複雑な地域があり, これまでも中学校の体験入学の日を4中学校で揃えるなど, 地域や学校で様々な工夫がされてきた。4中学校9小学校を小中一貫教育の取組単位とし, 緩やかな繋がりの中においてどのように子どもたちを育むかは今後の課題だと考える。

② 検証委員会による学校訪問

本市の学校評価システムが、学校現場において、学校改善に向けたシステムとしての確に機能しているかどうかを検証するため、学校訪問を実施した。平成28年度の学校訪問にあたって、本市において平成23年度から全中学校区で実践している小中一貫教育の観点も踏まえ、前年度に引き続き中学校区単位での学校訪問とし、以下の2中学校区（北野中学校区及び桃山中学校区）において、校長・地域連携担当教員・学校運営協議会委員ヒアリング、授業参観等を実施して、カリキュラム及び授業以外の教育活動における子どもたちの姿からも学校の取組について評価していただいた。

<北野中学校区>

(ア) 朱雀第二小学校において実施

- ・日 時 平成29年2月21日（火）9：00～13：00
- ・委 員 天笠副委員長（リーダー）、加藤委員、田中委員、山田委員、佐藤委員
- ・内 容 5校（大將軍小学校、仁和小学校、朱雀第二小学校、朱雀第八小学校、北野中学校）校長が参加しての北野中学校区の概要説明
4中学校9小学校における小中一貫教育の取組説明
朱雀第二小学校の取組

(イ) 仁和小学校において実施

- ・日 時 平成29年2月21日（火）13：30～16：00
- ・委 員 天笠副委員長（リーダー）、田中委員、佐藤委員
- ・内 容 仁和小学校の取組

(ウ) 北野中学校において実施

- ・日 時 平成29年3月2日（木）9：00～14：15
- ・委 員 天笠副委員長（リーダー）、加藤委員、田中委員、西川委員、佐藤委員
- ・内 容 北野中学校の取組
5校合同協議（大將軍小学校、仁和小学校、朱雀第二小学校、朱雀第八小学校、北野中学校）

<桃山中学校区>

(ア) 桃山小学校において実施

- ・日 時 平成29年2月17日（金）9：00～13：10
- ・委 員 小松委員長（リーダー）、塩尻委員、内藤委員、堀内委員、高橋委員、村田委員、中東委員
- ・内 容 4校（桃山小学校、桃山東小学校、桃山南小学校、桃山中学校）校長が参加しての桃山中学校区の概要説明
桃山小学校の取組

(イ) 桃山南小学校において実施

- ・日 時 平成29年2月17日（金）13：30～16：00
- ・委 員 小松委員長（リーダー）、塩尻委員、内藤委員、堀内委員、高橋委員、中東委員
- ・内 容 桃山南小学校の取組

(ウ) 桃山中学校において実施

- ・日 時 平成29年2月20日(月) 9:00~14:30
- ・委 員 小松委員長(リーダー)、塩尻委員、内藤委員、堀内委員、高橋委員、村田委員、中東委員
- ・内 容 桃山中学校の取組
4校合同協議(桃山小学校、桃山東小学校、桃山南小学校、桃山中学校)

委員からは、「同一中学校区の小学校と中学校を訪問することで、その地域の子どもの学びの様子を、義務教育9年間の流れで知ることができた。その中での学校評価の機能について改めて検証する機会となった。」「訪問した中学校区の小・中学校が、いずれも方向性を同じにしつつ各校ならではの取組を推進している姿を見ることができた」等の評価をいただいた。

また、今後に向けた課題としては、「学校評価や学校運営協議会の仕組みが定型化してきつつあり、学校運営協議会設立時の思いを共有した教員も異動していく状況の中、当時の熱意を持続していくことは難しい。学校だけでなく、PTAや地域も巻き込んで社会全体で子どもたちを支えていくことが必要。」「小中一貫教育の流れの中で、各校や地域の多様性を担保しながら子どもたちを育てる仕組みの一つとして、学校評価も今後その質を高めていかねばならない。」等の意見をいただいた。

③ 第2回会議

- ・日 時 平成29年3月21日(火) 15:00~
- ・会 場 京都市総合教育センター1階 第2研修室
- ・委 員 小松委員長、天笠副委員長、加藤委員、塩尻委員、田中委員、内藤委員、堀内委員、高橋委員、山田委員、村田委員、中東委員、佐藤委員
- ・議 題 京都市の学校教育の充実に向けて(学校訪問等も踏まえて)
- ・議事概要
(京都市の学校教育の充実に向けて(学校訪問等も踏まえて))

【小中一貫教育について】

<北野中学校区>

- 学校評価の項目立ては、学校の目指す方向性を表す。学校それぞれの評価の取組が目指す方向性と合致しているかのチェックが大事。4中学校9小学校の取組については、方向性を同じにして学校の独自色も失われず進められており、とてもすばらしいと思った。学校運営協議会についても、学校づくりに参画してもらうための組織に発展させていただきたい。
- 各校間の内部的な組織マネジメントと共に、教育委員会の行政サイドからの支援も必要。小中一貫教育の実をあげていく手法において、この地域の取組は京都市全体の試金石になると思う。
- 「子どもたちが楽しく中学校に通う」ために、様々な地域差のある複数の小学校及びそれらをまとめる中学校で、どのように子どもたちの中学校生活を担保できる取組を行うかが、小中一貫教育の大切さの一つである。義務教育9年間の一貫したカリキュラム編成に加えて、「15歳までの視点」でどのように子どもたちを育てていくか。小中学校それぞれが持つ独自の文化を相互に交流することが、子ども理解に繋がることになる。

<桃山中学校区>

- 中学校のリーダーシップのもと、4校長の結束を感じた。中学校ブロックとしての共通課題が何かを各校で検討してはどうかと思った。

- 校区が広いと、小学校同士が、子どもたちの目線や動線を踏まえたリアリティのある連携をするのは大変である。小学校・中学校間の縦の連携のみならず、3小学校が各校の特色を生かしながら、小学校間の横の連携についても考え、実行していくことが必要である。
- 小中一貫教育の観点では、学校長同士が阿吽の呼吸で子どもの育ちについてコミュニケーションを密にすることと、小学校同士が横の繋がりで一体感を持って教育活動を行うことが大事。

【学校評価及び学校運営協議会について】

- 「小中一貫教育」「学校評価」「学校運営協議会」という3つの制度は、この20年ほど教育界の中で研究・実践されてきたこと。今、教育の基軸が変わり始めているように思っている。京都市で学校運営協議会や学校評価が導入されるようになった経過や、この3つの制度についての連関を考えるべき時期ではないか。
- 評価は本来、自己⇄他者、内部⇄外部の2つの軸があり、4象限に分かれる。学校評価においては、内部の自己評価が学校の自己評価、内部の他者評価が同僚評価、外部の自己評価が学校関係者評価、外部の他者評価が本検証委員会により行う第三者評価である。この4つの評価が全てなされてこそ、本来の評価の形である。外部の自己評価（学校関係者評価）を成り立たせるためには、保護者や地域の学校運営への参画が重要であり、そのためには、学校運営協議会と学校がよく話をすることが必要。保護者や地域の思いはどのようなものかを知り、学校運営に生かすためのものが「学校評価」であるという、制度趣旨の原点に立ち帰る時期だと思う。
- 町衆による学校設立等、京都で学校ができた歴史を踏まえると、学校評価や学校運営協議会、またPTAという制度によらずとも、京都の学校はもともと保護者や地域と繋がりの深いものであるといえる。家庭・地域が子どもを育む力を高める方策の一つとして、学校評価や学校運営協議会、またPTAという制度を活用すればよい。
- 学校運営協議会があるからこそ、地域の人々が学校に来やすくなっており、効果はあると思う。ただし、学校運営協議会設立の時に熱い思いを地域と共有した教員が異動していく中、設立当時の熱意を持続していく方策については検討しなければならない。
- 学校運営協議会があるから、教員も子どもたちも、地域の方々と繋がりを持っている。地域に子どもを送り出し、子どもたちに伝統と文化を教えてもらうことに繋がっている。また、保護者の地域社会への参画にも繋がっており、学校・地域双方向に良い方向に向かっている。
- 保護者にもアンケートを通じて子どもたちの教育に関する当事者意識を持ってもらうことは大切。そのような意識を持てる評価項目・アンケート内容にしていくことが大事。

【今後の検証委員会の方向性等について】

- 授業力向上は学校教育の肝である。検証委員会における授業への評価についての力点の置き方を検討する時期であると考え。
- 学校評価という制度をどう転換するか、「学校評価」という制度をどのように評価していくかが我々検証委員会の役割である。検証委員会の学校訪問のあり方も、授業の見学や学校教育活動全般を見渡すなど色々ある中で、どのような方法が良いかを検討すべき。
- 様々な保護者や地域がある状況下、学校の特色化が学校改革において論じられるべき観点の一つである。この観点を踏まえたうえで、学校評価の仕組みをどのように活用していくことができるのかという反省期に、今いると思う。形骸化からの脱却のために、学校・家庭・地域の生の声を聞くことが必要である。

(5) 学校評価支援システムの運用

ア 概要

平成26年度に導入した「京都市版学校評価支援システム」は、本市の新たな情報環境や情報機器に対応し、かつ機能面でも、アンケートの作成・集計・分析・データ管理を一つのシステム

メニューに統合し、分析結果のグラフをより見やすくする等の改善を加えた本市独自のシステムである。平成27年度には、学校からの要望を踏まえ、アンケート作成や集計をより効率的に、結果分析をより多面的に実施できる「アンケート結果の学年・組での絞り込み機能」や「他校と共通のアンケートをとれる機能」等の機能を追加し、学校評価におけるアンケートの作成・集計・分析・データ管理を容易にできるよう改善し、各校で活用されている。

イ 活用状況

学校評価支援システムを活用している学校は、全小中学校の約8割となる186校である。そのうち、学校評価支援システムを活用した「重要度」と「実現度」との両方を聞くニーズ調査型アンケートを91校で実施している。学校評価支援システムが、学校の実情に応じて適宜安定的に活用されているといえる。今後も、ニーズ調査型アンケートによる調査・分析を効果的な学校改善に繋げることができるよう、丁寧な運用支援を行っていきたい。

【学校評価支援システムを活用してアンケートを実施している学校の状況】

アンケートの実施状況	小学校 (163校中)		中学校 (73校中)		合計 (236校中)	
	実施 校数	実施校数 /全小学校数	実施 校数	実施校数 /全中学校数	実施 校数	実施校数 /全小中学校数
「重要度」と「実現度」を聞く ニーズ調査型アンケートの実施	62	38.0%	29	39.7%	91	38.6%
「実現度」のみを聞く アンケートの実施	62	38.0%	33	45.2%	95	40.3%
合 計	124	76.1%	62	84.9%	186	78.8%

なお、学校評価支援システムを活用せずにアンケートを実施している学校においても、約8割の学校が評価の分析や課題等について簡潔に記述したり、円グラフや棒グラフを使ってわかりやすく結果を示すなど工夫をしている。

(参考)

1. 「重要度」と「実現度」を聞く「ニーズ調査型」アンケートの例

◆挨拶について

以下の項目について、「どのくらい重要だと思うか(重要度)」と、「実現できていると思うか(実現度)」をそれぞれお答えください。

		重要度				実現度			
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1	自ら進んで挨拶をすること	0	0	0	0	0	0	0	0
2	相手の気持ちを思いやって接すること	0	0	0	0	0	0	0	0

2. ニーズ調査型（魅力・課題発見型）分析の例

学校評価支援システムでは、アンケートの中で各項目の重要度と実現度を同時に聞くことにより、学校の魅力・課題を自動的に分析することができる。

分析結果例

質問項目	▲ 重要度 ▼	▲ 実現度 ▼	▲ ニーズ度 ▼
子どもが適切な言葉づかいをすること	7	1.1	48.3
子どもが丈夫な体をつくろうとすること	3	1	21
子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	4.9	5	14.7
子どもが他人を思いやり、親切にすること	7	5	21
子どもが楽しく学校に通っていること	7	5	21
子どもが将来の夢や希望について考えること	7	1.1	48.3
子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	2.9	2.9	14.8
子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	7	4.9	9
学校が、いじめのない学校づくりに取り組んでいること	7	7	7
学校が、人権を大切にしたい教育活動を行うこと	7	7	7
学校の教育方針が保護者に伝わっていること	5.7	3.5	25.7
学校だより、学校ホームページで学校の様子を伝えること	6.9	3.4	31.7

■は、重要度が高い項目

■は重要度が高く、実現度が低い項目。この項目を重点課題に位置付けるなど、回答に表れた願いを学校の取組に反映させることができます。

■は、実現度が低い項目

重要度も実現度も高い項目

自校の魅力

重要度と実現度の関係を相対的に捉えることで、学校の魅力、課題を視覚的にとらえることができ、焦点化した分析が可能になります。

また、教職員と保護者に同様の質問項目を設定することで両者の認識のずれを確認できます。

自校の課題

高 ↑ 実現度 ↓	子どもが適切な言葉づかいをすること	子どもが他人を思いやり、親切にすること	子どもが楽しく学校に通っていること
	子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	学校の教育方針が保護者に伝わっていること	子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること
低	子どもが丈夫な体をつくろうとすること	子どもが適切な言葉づかいをすること	子どもが将来の夢や希望について考えること

低 ←重要度→ 高

重要度が高く、実現度が低い項目

(6) 小中一貫教育等に対応した学校評価の取組研究～文部科学省委託事業「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業」の実施

子どもたちの9年間の学びと育ちを支える小中一貫教育を推進するために、中学校区としての学校評価の充実に向けた学校運営協議会等の機能向上が必要である。本委託事業では、次の2つを柱に、国における平成28年度からの小中一貫教育の制度化の中で「併設型小・中学校」の要件とされた「小中一貫教育を行うためにふさわしい運営上の仕組み」について取組の推進を図った。

①中学校区における小中一貫教育の取組に関して、学校の自己評価とともに学校関係者評価において、子ども・保護者へのアンケートや各種学力学習状況に関する調査結果などのデータを基にした検証を行い、各中学校区の小中一貫教育について、学校・家庭・地域の共通理解を図る。

②中学校区が抱える課題に対して、学校の取組改善はもとより、地域や保護者の視点を生かした学校支援活動の実践・充実に繋げる。

<研究指定>

①花山中学校区（鏡山小学校、陵ヶ岡小学校、花山中学校）

②洛西中学校区（新林小学校、境谷小学校、洛西中学校）

③桃山中学校区（桃山小学校、桃山東小学校、桃山南小学校、桃山中学校）

①花山中学校区においては、中学校区で共通の学校評価項目を策定し、3小・中学校の学校長とPTA会長とで構成する花山中学校ブロック学校運営協議会学校評価部会を組織することで、小・中学校合同での学校評価に向けたシステムを構築した。また、②洛西中学校区では、これまで各校で異なっていた学校評価項目を共有し、小中一貫教育の重点目標を踏まえた共通の評価項目を作成して、学校評価活動を進めることとした。③桃山中学校区では、桃山中学校下の3小学校長が、桃山中学校の学校運営協議会の理事に加わると同時に、桃山中学校長が3小学校の学校運営協議会に参加し、小中一貫教育の観点から中学校区としての目標・課題を共有することとした。

いずれの中学校区においても、義務教育9年間において地域ぐるみで子どもを育てるという認識のもと、目標と課題を共有するための組織づくりと、そのための学校評価制度の活用という基盤をつくりあげることができた。

今後は、本研究の成果を全市へ普及させ、各中学校区における小中一貫教育の観点からの自律的・組織的な学校運営の構築に繋げるとともに、その基盤としての学校評価制度の更なる充実に生かしていきたい。

(7) 学校評価実施報告書の様式の改善

平成27年度の検証委員会において出された意見を踏まえ、毎年度教育委員会で定める「学校教育の重点」に記載の「学校教育において重視する視点」に関する評価と、評価項目・具体的な取組・その結果・分析・改善策の関係をわかりやすい形に改善し、平成28年度報告から使用している。

(変更後の様式は17ページ参照)

(変更前の様式)

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名()

1 平成27年度 重点評価項目

2 1回目評価

	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	自己評価		学校関係者評価	
						評価日	評価者・組織	評価日	評価者(いずれかに○)
						分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
1	確かな学力					⇒		⇒	
2	豊かな心					⇒		⇒	
3	健やかな体					⇒		⇒	
4	独自の取組					⇒		⇒	

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名()

3 2回目評価

	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	自己評価		学校関係者評価	
						評価日	評価者・組織	評価日	評価者(いずれかに○)
						分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
1	確かな学力					⇒		⇒	
2	豊かな心					⇒		⇒	
3	健やかな体					⇒		⇒	
4	独自の取組					⇒		⇒	

4 総括・次年度の課題

(変更後の様式)

平成28年度「学校教育の重点」に記載の「学校教育において重視する視点」

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名()

1 1回目評価				自己評価			学校関係者評価	
・個別評価項目の設定及び各項目にわたりを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理			評価日	評価者
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策	評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
	授業改善							
確かな 学力	家庭学習の習慣化							
	「公共の精神」に基づく態度の育成							
豊かな 心	自他を大切に する態度の育成							
健やかな 体								
独自の 項目								

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名()

2 2回目評価				自己評価			学校関係者評価	
・個別評価項目の設定及び各項目にわたりを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理			評価日	評価者
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標	アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策	評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
	授業改善							
確かな 学力	家庭学習の習慣化							
	「公共の精神」に基づく態度の育成							
豊かな 心	自他を大切に する態度の育成							
健やかな 体								
独自の 項目								

3 総括・次年度の課題

4 学校評価関係年表

年月	京都市	国
H10年9月		○中教審答申『今後の地方教育行政のあり方について』 「…各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること…」
H12	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評議員の設置を明記）	
H12年12月		○教育改革国民会議報告『教育を変える17の提案』 「…地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支えあう社会と学校を目指すべき…」 「…各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる…」 ○教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方について』 「…各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である…」 「…自己点検・自己評価の公表については、地域や学校の実情に応じて、各教育委員会等においてそのあり方を検討することが望ましい。また、公表に当たっては、序列化などの問題が生じないように、十分留意する必要がある…」
H13年4月	○学校評議員を全校・園に設置	
H13年8月	○京都市新世紀教育改革推進プロジェクト「学校評価部会」発足（～平成15年2月）	
H13年9月	○京都市学校評価実践研究協力校7校を指定	
H14年3月		○小・中学校設置基準 （自己評価の実施と結果の公表が努力義務化。保護者等に対する情報提供を積極的に行うよう規定）
H14年4月	○京都市では学校評価を全校種40校で実施	
H14年11月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」で国が御所南小を指定。同事業の一環として、京都市が独自に高倉小を指定	
H15年3月	○地域教育専門主事室「今求められる学校づくりのために」（実践事例集・ガイドライン）発行	
H15年4月	○学校評価を全校・園で実施	
H15年9月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」の一環として、京都市が独自に京都御池中を指定。すでに指定を受けている御所南小・高倉小と共に実践研究を進める	
H16年3月	○評価結果を全校・園で公表	
H16年11月	○京都市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定 ○御所南小・高倉小・京都御池中に学校運営協議会を設置	
H17年5月	○学校運営協議会5校設置	
H17年6月		○閣議決定『経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005』（義務教育における外部評価の実施と結果の公表のためのガイドライン策定が掲げられる） ○中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』（大綱的な学校評価ガイドラインの策定が必要と提起）

年月	京都市	国
H17年10月		○中教審答申『義務教育の構造改革』 「…教育の結果の検証を国の責任で行う。具体的施策として全国学力調査と学校評価システムをあげた… 「教育の質的向上に寄与する学校評価」という新たな捉え方」
H18年3月	○学校運営協議会17校設置	○文部科学大臣決定『義務教育諸学校における学校評価ガイドライン』（京都市などの事例を基に国の学校評価ガイドライン発表）
H18	○児童生徒によるアンケート評価を全校実施	
H18年12月	○学校運営協議会に関する専門委員会内に学校評価専門部会（平成19年に学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会に改組）を設置	○「規制改革・民間開放推進に関する第3次答申」（学校教育制度の評価確立が求められる） ○教育基本法改正
H19年1月		○教育再生会議第1次報告『社会総がかりで教育再生を』（保護者等による実効ある外部評価の導入とその結果の公表について提言）
H19年3月	○京都市教育委員会「学校評価実践協力校の実践報告集」発行 ○学校運営協議会60校設置	○初等中等教育局長通知 「…学校評価制度等に係る運用上の工夫等について」（個人情報に配慮した上でホームページ等で評価結果を公表するよう促している） ○中教審答申『教育基本法の改正を受けて緊急に必要とされる教育制度の改正について』 「…情報提供に関する学校の責務の明確化は、公の性質を有する学校が、自らの説明責任を果たすためにも重要…」 ○文部科学省通知 「…個人情報に配慮した上で、評価結果をホームページ等で公表することを推進する…」
H19	○評価結果のHP公表の徹底	
H19年4月	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評価を規則にも明記） ○学校評価ガイドラインの改訂	
H19年6月	○「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」制定（学校教育活動についても条例の対象とした。全国初）	○学校教育法一部改正
H19年12月	○京都市「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」第1回開催	○学校教育法施行規則一部改正 （学校評価を生かした学校改善及び教育水準の向上、保護者・地域住民等への教育活動や学校運営に関する情報の積極的な公開の規定を盛り込む）
H20年1月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 （19年6月の法改正を受けての改訂）
H21年3月	○学校運営協議会142校設置	
H21年6月	○京都市学校評価ガイドライン【第3版】策定	
H22年3月	○学校運営協議会163校設置	
H22年7月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 （第三者評価の在り方に関する記述の充実）
H23年3月	○学校運営協議会171校設置	
H23年11月		○文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン』改訂 （第三者評価の在り方に関する記述の充実）
H24年3月	○学校運営協議会184校設置 （総合支援学校全校設置）	
H25年3月	○学校運営協議会192校設置	
H26年3月	○学校運営協議会210校設置	
H26年4月	○文部科学省委託事業「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」受託（～27年度）	

年月	京都市	国
H27年3月	○学校運営協議会 229 校設置 (小学校全校設置)	○文部科学省「コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議」報告書公表 (コミュニティ・スクールの拡大・充実のための推進方策や今後の学校運営協議会制度等の在り方等について提言)
H27年12月		○中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」 (全ての公立学校がコミュニティ・スクールを目指すべきであり、教育委員会は積極的にコミュニティ・スクールの推進に努めていくよう制度的位置付けを検討すべきである)
H28年3月	○学校運営協議会 233 校設置	○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (平成28年4月の義務教育学校並びに小中一貫型小学校及び小中一貫型中学校制度化を踏まえ、小中一貫教育を実施する学校における学校評価の留意点を反映)
H28年4月	○文部科学省委託事業「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業(小中一貫教育等に対応した学校評価の取組研究)」受託	
H29年3月	○学校運営協議会 239 校設置	○文部科学省「いじめの防止等のための基本的な方針」改定(学校評価において、いじめの有無や多寡のみではなく、いじめが発生した際の迅速かつ適正な情報共有や組織的な対応が評価される旨の教職員周知の徹底を明文化)
H29年4月		○地方教育行政の組織及び運営に関する法律一部改正 (教育委員会に対する学校運営協議会の設置の努力義務化、学校運営への支援について協議事項に位置付け)

Ⅱ 学校での取組事例

学校評価のねらい

- 学校教育目標の実現を目指した学校教育活動について、その成果と課題を明確にする。
- 評価結果より、学校教育活動の充実・改善に生かす。
- 外部評価（児童・地域・保護者）の実施により、評価の客観性を高める。
- 外部評価を公表することにより、学校・地域・家庭の三者で課題を共有し、それぞれの果たす役割を再認識する。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間	4	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の学校評価から、学校教育計画を立案する。 		
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会・評価項目の検討 ・自己評価カードの記入（教職員）とヒアリング 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の基本方針等配信（HP掲載） ・日曜参観
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・内外評価の共通理解 ・計画に基づく実践活動の自己評価と振り返り（学級経営案・自己評価カード・職員会議） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会理事会（学校経営の基本方針等教育計画の理事への説明） 	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域・学校運営協議会理事、企画推進委員からの外部評価の実施。（アンケート調査・学級懇談会等） ・児童による振り返り 		
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の分析 		
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の自己評価に基づく後期の計画の立案。（学級経営の重点課題・各部署委員会の重点課題） 		
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の計画に基づく実践活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会理事会（学校評価について） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の分析と公表（学校だより・HP掲載）
	11			
	12			
	年 間	1	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づく実践活動の自己評価と振り返り（学級経営案・自己評価カード・職員会議） 	
2		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域・学校運営協議会理事からの外部評価の実施。（アンケート調査・学級懇談会等） ・児童による振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会理事会（学校評価について） 	
3		<ul style="list-style-type: none"> ・年度末自己評価の実施（学級経営案・自己評価カード・職員会議） ・学校評価の分析（次年度の課題を探る。） ・校長による教職員のヒアリング 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の分析と公表（学校だより・HP掲載）

平成28年度 京都市立仁和小学校 教育構想図

【社会情勢】知識基盤社会・グローバル化・価値観の多様化・豊かな社会と心の貧困化

京都市の学校教育

目指す子ども像 伝統と文化を受け継ぎ、時代と自らの未来を切り拓く子ども
重視する視点 子どもの主体性と社会性の育成を目指して
「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高める

地域の実態

☆共働き世帯が多い
☆近くに商店街があり、
寺・神社が多い。
☆学校に協力的。

児童の実態

☆人なつこく素直でまじめ。
☆自分の思いを書いたり、伝え
たりすることが苦手。
☆自尊心が下がることがある。
☆規範意識が低い場面がある。

仁和の教育

学校教育目標

進んで学び、生き生きとたくましく、共に生きる子の育成

目指す子ども像

【確かな学力】

よく考え、伝え合う子
「学びあい」

【豊かな心】

支え合い、高め合う子
「ふれあい」

【健やかな体】

元気いっぱい活動する子
「鍛えあい」

学校経営の基本方針

- (1) 子どもの「体といういのち」「心といういのち」を全教職員で守りきる。
- (2) 子ども一人一人が「わかる・できる喜び、学ぶ楽しさ」を実感でき、個が輝く学校づくりを進める。
- (3) 子どもの実態や地域の特徴に対応した教育活動を展開し、創意ある学校づくりを進める。
- (4) 学校生活やあらゆる教育活動を通じて子どものキャリア発達を学校組織全体で支援する。
- (5) 学習意欲の向上や学習習慣の定着を図りながら、お互いを支え合い、高め合う集団づくりの推進と絆づくりに努め、個に応じた指導方法と指導体制の工夫・改善を図り、一人一人に確かな学力を保障する教育活動を展開する。
- (6) 一人一人の子どもが約束やルール、規律等を確実に身に付けられるよう規範意識の徹底を図り、道徳的実践力を高め、生涯にわたって人間性豊かに生きていく意欲・態度と健やかな体を育てる教育活動を推進する。
- (7) 教職員一人一人が自己研鑽に励み、持ち味や専門性を生かし、協働して教育活動を展開する。
- (8) 地域とともに歩む教育活動を展開し、「開かれた学校づくり」に努めるとともに、校種間連携を推進する。

平成28年度 仁和小学校教育の推進にあたって

【学校の使命】

- 1 学校の教育活動を通して「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成。
 - ・子どもの命（心と体）を守りきる。
 - ・「言語活動」の充実を図り，基礎的・基本的な学力の定着と，思考力・判断力・表現力の育成など学力の向上を図る。
 - ・道徳教育の充実を図り，「協働活動」を意図的・系統的に展開し，規範意識を育て，支え合い高め合う集団づくりを推進する。
 - ・健康で，安全に学校生活が送れるような健やかな体の育成を図る。

- 2 保護者・地域から信頼される学校づくり
 - ・子どもたちの実態をよく理解してもらい，学校と家庭・地域で課題を共有する。
 - ・学校からの発信の場，話し合いの場を計画的にもち，意志の疎通を図る。
 - ・学校運営協議会等を通して学校運営に参画してもらい，地域と共に歩む学校にする。

- 3 小中一貫教育，学校間連携の推進
 - ・小中，小小の連携を密にし，課題の共有を図り，共同の取組を推進する。

【学校経営の視点】

- ① 全教職員が課題を共通理解し，役割・任務を自覚し，組織的に取組を進める。
- ② 教職員一人一人が自分の専門性を生かし，仁和校教育をリードするとともに，授業や取組を積極的に公開して専門的力を高める。
- ③ 教職員同士が学び合い，高め合い，協力し，助け合い，互いに指摘し合い，何でも相談し合える，風通しのよい教職員集団を目指す。
- ④ 組織化と効率化をキーワードに取組を進める。
- ⑤ 学年集団を中心として，チームとして指導を進める。
- ⑥ 「教育は笑顔から」「美しい学校」「時間厳守」

【研究と生徒指導について】

○研究について

「授業が変わる・学校が変わる・子どもが変わる」より良い授業づくりに励むことは，子どものくらしにつながるあらゆる教育活動の質を高める。まず，授業力の向上をめざす取組を進めることが重要課題の一つ。

- ・「授業公開」「授業観察」「授業分析」を大切にする授業研究を中核に捉え、実践的で日常的に校内研究を進める。
- ・自らの授業力（実践力）を向上させるために、研修に励みながら切磋琢磨する教職員集団を目指す。
- ・外部講師による指導や先進的な実践研究校の参観など、学校外から学ぶ機会を多く設ける。

○生徒指導について

- ・問題行動への迅速かつ的確な対応を進めることは当然としても、問題発生の未然防止の観点から、手だてを明らかにした日常の取組を進める。
- ・「不登校」「児童虐待」の問題については、教育相談・関係機関との連携を図りながら、全校的な共通理解をもとに、問題解決に向かう取組を積極的に進める。
- ・子どもたちが、多くの人と仲良く交流し、自分らしく主体的に活動するために必要な「人とのかかわり、共に生きるためのルールやマナー」を学習する場を設ける。

【保護者・地域との連携】

- ・学校を公開し情報を発信し、保護者や地域と課題を共有して、共に取り組む双方向の関係を構築する。
- ・保護者や地域の方々へは、丁寧な対応を心がけ、説明を十分に行い、課題と対応策を共通理解する。
- ・学校運営協議会、P T A等と積極的に連携し、学校運営に参画していただくとともに子ども達の活動の支援にあたっていただく。
- ・様々な「おたより」の発行、ホームページでの発信、参観・懇談会等の開催、家庭訪問の実施、自由参観の開催等を計画的・継続的に行う。
- ・地域行事へは計画的に教職員が参加する。

【服務規律の徹底】

- ・教育公務員としての立場を自覚し、子ども・保護者・社会からの信頼を損なわないようにする。
- ・一般社会の感覚、常識等に目を向けながら、学校としての対応、各自の行動を考える。
（例）服装 言葉づかい 電話対応 挨拶 …
- ・不祥事の根絶に向けて、各自が自覚を持つ
（例）交通事故 書類の紛失 セクハラ 税金滞納 虚偽報告 携帯電話 …

仁和小学校の学校評価について

1 評価のねらい

- 学校教育目標の実現を目指した学校教育活動について、その成果と課題を明確にする。
- 評価結果を分析することにより、学校教育活動の充実・改善に生かす。
- アンケート（児童・地域・保護者）の実施結果をもとにすることで、評価の客観性を高める。
- アンケート結果を公表することにより、学校・地域・家庭の三者で課題を共有し、それぞれの果たす役割を再認識する。

2 重点評価項目

(1) 確かな学力

- ①授業内容の工夫・改善
- ②読書活動の充実
- ③家庭学習の習慣化

(2) 豊かな心

- ①「公共の精神」に基づく態度の育成
- ②挨拶・返事・望ましい言葉遣いの徹底

(3) 健やかな体

- ①自他を大切にすることの態度の育成
- ②体力向上

(4) 学校独自の取組

- ①地域・PTAと協力した取組

3 評価手法

- ・保護者・児童及び教職員に対するアンケート調査を実施した。また、全国学力・学習状況調査やプレジョイントプログラム・ジョイントプログラムの結果、日々の学校生活の様子についても評価の判断材料とした。
- ・評価の結果については、全教職員で共有し、今後の指導や取組に生かした。また、学校運営協議会理事会に諮った。
- ・「学校評価支援システム」を活用し、重要度と実現度を聞くニーズ調査型で分析した結果を、学校だよりやホームページで公表した。

4 アンケート結果等による分析

(1) 確かな学力について

保護者アンケートで「子どもが意欲的に取り組める授業であること」や「教師が子どもたち一人一人にわかる授業をするよう心がけていること」等項目が他の項目より高い値になっており、教員の行う授業が、保護者から一定の評価を得ていると考えられる。

本校では、研究教科である算数科を中心に、自分の考えをノートやプリントに言葉や図などを使って記述し、その記述をもとに話し合いをすることで、互いの考えを高め合えるように様々な取組を進めている。その結果、ノートに自分の考えが書けるようになってきたり、話し合い活動において自分の考えがしっかり述べられるようになってきたりする等の成果が表れてきたが、保護者アンケートの「自分の思いや考えをわかりやすく書いたり話したりできること」、児童アンケートの「自分の思いや考えを発表しようとする」との項目において、両者とも値が低くなっており、「自分の思いや考えをわかり

やすく他者に表現すること」が、未だ本校児童の課題の一つであると捉えている。自分の考えを分かりやすく表現する力や説明する力、他者の説明と自分の考えを比較して意見を述べる力、意欲的に話し合いに参加して話し合いを進めていく力等を今後一層高めていく必要がある。

また、読書に関するアンケートにおいては、保護者と児童とでは、結果に違いがあった。児童は、進んで読書をしていると答えているが、保護者は、読書の習慣があまりないと感じている。学校では、「おはよう読書」という取組で、毎朝決められた時間に全員が読書をする。また、「あじさい読書週間」「コスモス読書週間」、読書年間100冊を達成した児童に賞状を贈る等の取組により、児童が本にふれる機会を多数設けている。それに対して、家庭では読書以外のことに取り組んでいる時間が多くあり、保護者にとっては、児童の読書習慣があまり見えてこないと考えられる。読書に関する学校の取組について、学校だよりやHPなどで発信していくとともに、家庭での読書の重要性についても伝えていく必要があるといえる。

(2) 豊かな心について

児童アンケートの「自分も友達も大切にすること」や「学校生活を楽しく過ごすこと」「友達となかよくすること」の項目の値が高くなっている。多くの児童が友達と仲良く楽しく学校生活を送っているといえ、学校として喜ばしいことである。

しかし、「挨拶」については、保護者アンケートの値が低くなっている。また、保護者や地域の方から挨拶できていないという声もお聞きしている。さらに教職員アンケートでも低い値になっている。本校では児童会を中心に月に1度挨拶運動（Hello Smile 運動）を実施しているが、その時はできていても日常的にできていない現状がある。また、児童アンケートでは値が高くなっており、大人との意識のずれも気になる。大人の願う挨拶とは、自分から相手の顔を見て元気のよい挨拶であるといえる。しかし、下を向いたまま小さな声で言っている挨拶でも、子どもたちは挨拶をしたつもりになっていると考えられる。「自分から」「相手を見て」「元気な声で」などの気持ちのよい挨拶について考える機会を頻繁に設けていきたい。そして、教職員もよい手本になるようにしたい。

(3) 健やかな体について

前期と後期のアンケートを比較した場合、ほとんど値に変化がなかったが、その中で、保護者アンケートの「子どもが早寝・早起きすること」の値は、大きく変化があった。前期から比べると0.7ポイントも下がった。重要度は前期と変わらず高いままであることから、早寝・早起きは大切なことだと思っているが、前期に比べてできなくなっていると考え保護者が増えているといえる。それに対して、児童の早寝・早起きに対する重要度・実現度は、前期と変わらない結果になっている。ただ、児童の回答の値が調査項目全般に高い中、早寝・早起きの値は低い値になっている。児童は前期の時から早寝・早起きがあまりできていないと考えていたと考えられる。また、長期休業明けに実施している「生活見直し週間」の結果も、夏休み明けに比べると冬休み明けの方が寝る時刻が遅い児童が増え、早く起きる児童が減っている。寒い季節になり、起きにくくなりがちだが、原因はそれだけではなく、学校保健委員会では、

兄弟姉妹の上の子のペースに合わせて弟や妹まで寝る時刻が遅くなっているという声が保護者から出ていた。家庭によって様々な原因があると思われるが、睡眠には、疲労回復や免疫力アップ、集中力などの脳機能のアップ、体の成長など成長期の子どもに欠かせない働きがあることを家庭に発信するとともに、学校でも「早寝・早起き」の大切さについて引き続き児童に指導していきたい。

5 自己評価

学校評価実施報告書（33ページ）を参照

6 学校関係者評価

- ・学力が回復傾向なのは良いこと。引き続き学校と家庭が協力して頑張ってもらいたい。
- ・漢字検定に多くの児童が申込みをし、多数合格したのはうれしいことである。
- ・3年の社会科「昔の道具」や、5年の家庭科でミシンを学習する際の実習補助などに対して、授業支援を継続していきたい。
- ・家庭では、本を読む以外にテレビやゲームなどの遊びがあるから読まないのだろう。読書の大切さについて引き続き、家庭に伝えていってほしい。
- ・わが子は家で宿題をしたら終わりであるとは何もしていない。家庭でも休みの日なども学習するように話をしていきたい。
- ・子どもたちが仲良くできていると考えているのは良いことである。さらに仲良くなるためにPTAや地域の行事を精選して参加しやすいようにしたい。
- ・挨拶ができていない児童とできていない児童との差がある。どの子も挨拶ができる子に育ってほしい。登下校の見守りなどでも大人も手本になるように積極的に声をかけていきたい。
- ・子どもたちの寝る時刻が遅くなってきているのは心配。手本となるべき大人の生活が遅くなってきている。子どもたちの生活リズムについては、我々大人が気をつけなければならない。
- ・今年は、PTAや地域の行事に参加する子どもの数が増え、喜んでいる。保護者の参加も増えてきている。ゆめの森（仁和小学校地の中にある約30メートル四方の池・水田・樹木林で、児童の生き物観察や環境学習の場となっている）改修をおやじの会が行った取組は良かった。さらに多くの子が遊んでくれるよう取組を進めていきたい。

7 総括・次年度に向けた課題等

- ・「自ら進んで考え、発表し話し合い、互いの考えを高め合える子の育成」を実現するために引き続き、算数科を中心にして授業研究を進めていきたい。
- ・道徳の授業の在り方についても研究し、児童の豊かな心を育む取組を実践していきたい。
- ・規則正しい生活を送ることや家庭学習を丁寧に行うことなど家庭の教育力を高めるために学校から情報を発信していかなければならない。
- ・1つの小学校から複数の中学校へ進学する学区を含む4中学校9小学校が一体となって推進している、小中一貫教育「よんきゅう絆プロジェクト」の取組を、北野中学校や大將軍小学校等と連携して充実させていきたい。

学校だより (前期実施アンケート公表資料)

保護者の皆様へ

京都市立仁和小学校
校長 鳥屋原 学

アンケートのお礼

晩秋の候、日だまりの暖かさが心地よい季節となりました。平素は本校教育にご協力いただき、誠にありがとうございます。また、7月には学校アンケートにご協力いただきありがとうございました。遅くなりましたが、学校アンケートの結果を報告させていただきます。皆様のご意見を大切にし、今後の仁和教育に生かしてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

(アンケートの見方)

- ・学校評価の観点を4つの分野(確かな学力・豊かな心・健やかな体・学校独自の取組)に分け、児童、保護者、教職員、学校運営協議会理事・企画推進委員を対象として調査しています。多少、表現の仕方に違いはありますが、いずれもほぼ同じ内容の質問をしています。(1・2年生は、質問内容が実現度のみになっています。)
- ・高、保護者アンケートについては、具体的な「評価の視点」を示すことで、基準を明確にし、より客観性を高めるよう取り組みました。
- ・「重要度」「実現度」を同時に尋ねる形式をとることで、「重要であるのに実現度が低い」(ニーズ度が低い)などの課題が分かりやすくなります。
- ・重要度・実現度の最高値は7、ニーズ度の最高値は49です。重要度6.4以上、実現度4.6未満を網掛けにし、ニーズ度25以上を重点課題と捉えています。

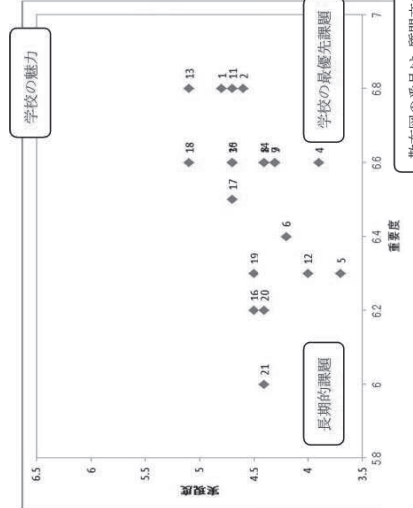
◆保護者集計表一覧

	質問文	重要度	実現度	ニーズ度
確かな学力	1 子どもが意欲的に取り組める授業であること	6.8	4.8	21.8
	2 子どもが学習の基礎・基本の力を身につけていること	6.8	4.6	23.1
	3 教師が子どもたち一人一人における授業をするよう心がけていること	6.6	4.7	21.8
	4 自分の思いや考えをわかりやすく書いたり話したりできること	6.6	3.9	27.1
	5 子どもに本を読む習慣があること	6.3	3.7	27.1
	6 子どもが思いや考えをわかりやすく書いたり話したりできること	6.4	4.2	24.3
豊かな心	7 子どもが途中であきらめず、学習に対して最後まで粘り強く取り組むこと	6.6	4.3	24.4
	8 子どもが進んであいさつすること	6.6	4.4	23.8
	9 学校が子ども一人一人を大切にした学校づくりをしていること	6.6	4.3	24.4
	10 きまりや約束事を守る指導を進めること	6.6	4.7	21.8
	11 子どもが人に對する思いやりの心をもつこと	6.8	4.7	22.4
	12 家族の中で仕事の役割があり、しっかりと守っていること	6.3	4.0	25.2
健やかな体	13 家族の中で子どもたちのふれあいや対話の時間をもちこと	6.8	5.1	19.7
	14 子どもが毎日バランスよくしっかりと朝食をとること	6.6	4.4	23.8
	15 子どもが早寝・早起きすること	6.6	4.7	21.8
	16 子どもが好き嫌いをなく何でも食べること	6.2	4.5	21.7
	17 子どもが健康や体を大切にすることを進めること	6.5	4.7	21.5
	18 学校がPTAや見守り隊の方々と力を合わせ、子どもたちの安全を見守っていること	6.6	5.1	19.1
学校独自の取組	19 学校の教育方針や取組が、地域・保護者に伝わっていること	6.3	4.5	22.1
	20 学校が家庭や地域と連携して活動すること	6.2	4.4	22.3
	21 学校・PTA・地域の行事が保護者として参加しやすい活動となっていること	6.0	4.4	21.6

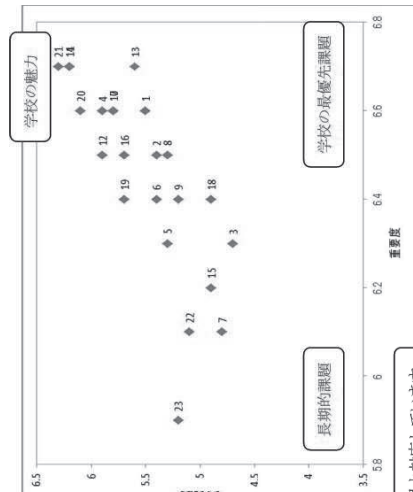
◆児童集計表一覧 (3~6年)

	質問文	重要度	実現度	ニーズ度
確かな学力	1 先生の話すことがよく分かること	6.6	5.5	16.5
	2 授業中に先生の言われたことがほとんどできること	6.5	5.4	16.9
	3 自分の思いや考えを発表しようとする事	6.3	4.7	20.8
	4 先生や友達の話をしっかり聞くこと	6.6	5.9	13.9
	5 進んで読書すること	6.3	5.3	17.0
	6 家の人に自分の思いを伝えること	6.4	5.4	16.6
	7 毎日、決まった時間、家庭で学習すること	6.1	4.8	19.5
	8 いろいろなことにめあてをもって努力すること	6.5	5.3	17.6
	9 いろいろなことにはねり強く努力すること	6.4	5.2	17.9
	10 進んであいさつすること	6.6	5.8	14.5
豊かな心	11 自分も友達も大切にすること	6.7	6.2	12.1
	12 学校生活を楽しく過ごすこと	6.6	5.9	13.7
	13 学校・学級の「きまり」や「やくそく」を守ること	6.7	5.6	16.1
	14 友達となかよくすること	6.7	6.2	12.1
	15 家で、手伝いをする事	6.2	4.9	19.2
	16 係活動やそうじをまじめにすること	6.5	5.7	15.0
	17 毎日、バランスよくしっかりと朝食を食べること	6.6	5.8	14.5
	18 毎日、早寝・早起きすること	6.4	4.9	19.8
	19 好き嫌いなく、給食を食べること	6.4	5.7	14.7
	20 いつも健康に過ごせるよう、体を大切にすること	6.6	6.1	12.5
学校の取組	21 安全(交通・防犯)に気をつけること	6.7	6.3	11.4
	22 地域のみなさんと交流すること	6.1	5.1	17.7
	23 地域やPTAの行事に参加すること	5.9	5.2	16.5

◆保護者散布図



◆児童散布図



散布図の番号は、質問文の番号と対応しています。

★保護者・児童のアンケートから

児童アンケートでは、実現度4.6未満の項目はなく、そのためにニーズ度も2.5以上になる項目はありませんでした。その中でも、「自分も友達も大切にすること」「友達となかよくすること」「安全（交通・防犯）に気をつけること」の項目において実現度が高い値になっており、友達と仲良くしたり、安全に過ごしたりしていると感じている児童が多いことが分かります。しかしその反面、「自分の思いや考えを発表しようとする事」「毎日、決まった時間、家庭で学習すること」の実現度が低くなっています。これは、4月に実施された6年生の全国学力・学習状況調査の児童質問紙の「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」などの質問で「得意」「している」と答えた割合が全国平均より下回っていたこととも一致します。また、保護者アンケートでも「自分の思いや考えをわかりやすく書いたり話したりできること」「子どもがいていねいに家庭学習に取り組んでいること」の項目で低い値になっていることが分かります。子どもたちの様子をご覧になられていても同様のことを多くの保護者が感じられていることが分かります。

仁和校では、「自ら進んで考え、発表し話し合い、互いの考えを高め合える子」の育成を目指し、自分の考えをノートやプリントに言葉や図などを使って記述し、その記述したことをもとに話し合いをすることで、互いの考えを高め合えるように様々な取組を進めています。そして、書く活動や話し合う活動を大切にすることで思考力・判断力・表現力の育成をさらに図りたいと考えています。今回の結果をもとにさらに取組を進めていきたいと思えます。また、家庭学習においては1年生から6年生まで系統立てた内容の宿題を出すようにしています。そして、高学年においては、自ら考えて学習に取り組んでほしいという願いから自主勉強の宿題も出しています。今の自分にとってもどんな学習が必要かを考え、実際に取り組む力は児童が卒業してからも必要となる力です。小生の間から自ら学ぶ力を身につけ、自分の夢の実現につなげてほしいと願います。さらに家庭学習に取り組むことができるよう年度当初に発行した仁和小学校版「自学自習構想」、仁和版「自学自習のすすめ」をもとに見直しを図りたいと思います。

☆自由記述欄から（一部抜粋）

- ・毎日、元気に登校し、楽しそうに帰ってきます。そんな姿を見ていると学校生活が充実しているのだと思えます。
- ・学校生活が楽しく充実している様子でも嬉しく思っております。
- ・先生方の熱意あるご指導のおかげで充実した小学校生活を送ることができています。いつも本当にありがとうございます。地域の皆様にも温かく見守られて恵まれた環境の中で過ごせることに感謝しています。
- ・自分の小学生の頃よりも、ずっと教育がしつかりと丁寧にされていると感じます。それぞれの子どもたちが楽しく長所を伸ばせるような場所であってほしいと思います。

【あいさつ・登下校】

- ・朝、声かけをしていると元気がなく、うつむいて登校をする子もいて心配です。服装も生活の乱れがあらわれと思うので、そういう子も心配になります。
- ・集団登校で毎朝、注意を呼びかけているグループがあります。道全体に広がって歩いている子どももいます。声をかけても無視される毎日です。自転車通動の方々も横断される心配になります。今一度、マナーの徹底をご指導ください。
- ・あいさつのできない子どもが多いですが、先生の中にもあいさつをしてくださらない方がいます。大人が手本となつて動くことが重要だと思います。

➡ あいさつについては、保護者アンケートの値も低くなっています。多くの保護者や地域の方があいさつできていないと考えられています。載せていませんが教職員アンケートでも低い値になっています。児童会を中心に月に1度あいさつ運動（Hello Smile 運動）をしています。その時はできていても日常的にできていない現状です。また、児童アンケートでは実現度が高くなっており、大人との意識のずれも気になります。「自分から」「相手を見て」「大きな声で」などの気持ちのよいあいさつについて考える機会を頻繁に設けたいと思います。そして、教職員もよい手本になるよう心掛けます。引き続き、保護者や地域の皆様もご協力をお願いいたします。

【ホームページ】

- ・ホームページをいつも拝見していますが、大きな行事だけでなく、日常の様子もたくさんアップしていただけると、学校での生活がよく分かってよと思います。
- ・参観のないイベントなど、日常の様子をもっとHPで見られたらありがたいです。

➡ 学校の様子を知っていただくためにもっとHPをアップしたいと思います。

【学校の取組】

- ・漢字検定をしてほしいです。
 - ・校外学習を増やしてほしい。
- ➡ 今年度から、土曜学習として漢字検定の取組を始めました。50名を超えるたくさんの応募があり、ありがとうございます。目標の級に合格できるようがんばって学習してほしいです。また、校外学習ですが、生活科や社会科、総合的な学習の時間を中心に校外に出て学習する機会があります。指導計画に基づいて学習するため、特別に多くすることはできません。

【家庭で】

- ・宿題や家庭学習は、しつかり取り組める日もありますが、なかなか気が進まずダラダラしたりもします。少しずつよい習慣をつけたいと思いますが、学校で疲れたのか、私と子どもの思いはずれています。気長に様子を見ながら、家庭でできることをやっていききたいと思います。
 - ・いつもお世話になり、ありがとうございます。早寝がいつもあまりできていません。早く寝るために、私がいればならないといけないのです。
 - ・先生方、いつもありがとうございます。子どもの学校での姿は、家庭の反映だともいえます。学校に任せるだけでなく、家庭の役割の大きさを改めて考えたいと思います。
- ➡ いつもこのアンケートを機会にご家庭のことについて振り返っていただき、ありがとうございます。学校と家庭、地域が連携して子育てをしていくことができると嬉しいです。

☆学校運営協議会理事・企画推進委員の皆様より（一部抜粋）

- ・あいさつの程度がよくできている子とあまりできない子がいますが、このことは家族の絆によって相違があるのかなあと思っています。どの子もあいさつができる子に育ってほしいものです。
- ・親や学校から子どもたちに、相手のことを思いやる気持ちをもつように教えられていると思いますが、なかなかそれが実行されていないような感じがします。自分の気持ちをすぐに伝えられるということも必要なことですが、集団生活をしていることを頭において気持ち伝えるということも必要なのかなと思っています。
- ・低学年の植物観察で関心のある子とない子の差を感じます。
- ・下校時、声かけ番で子どもたちの様子を見ていると、男子女子一緒に遊んでいたり、学年もさまざまに遊んでいたりの様子を見てるとほほえましく思います。ただ、低学年の子どもの多くの多くが、「さよなら」を言えずにいることが残念だったりします。校門を出てからの「ランドセルジャンケン」も危険なので、目の届く限りは声をかけていますが、心配です。今年は、花壇が学年ごとに賑やかで声かけの合間に眺めるのも楽しみです。図書ボランティアさんの活動もずっと続いていることもとてもうれしいです。
- ・地域等との連携の行事にご協力いただきありがとうございます。私は地域のことではか話ができませんが、もっと連合会に対して意見やリクエストを出していただいていた方が連携もより深まっていくと思うのですが、いかがでしょうか。

***たくさんのご意見をいただきました。今後の仁和教育に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。**

学校だより（後期実施アンケート公表資料）

保護者の皆様へ

京都市立仁和小学校
校長 鳥屋原 学

アンケートのお礼

ゆめの森の草花もつぼみをふくらませる季節となりました。平素は本校教育にご協力いただき、誠にありがとうございます。また、1月には学校アンケートにご協力いただきありがとうございます。遅くなりましたが、学校アンケートの結果を報告させていただきます。皆様のご意見を大切に、今後の仁和教育に生かしてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

（アンケートの見方）

- ・学校評価の観点をもとに4つの分野（確かな学力・豊かな心・豊かな心・学校独自の取組）に分け、児童、保護者、教職員、学校運営協議会理事・企画推進委員を対象として調査しています。多少、表現の仕方に違いはありますが、いずれもほぼ同じ内容の質問をしています。（1・2年生は、質問内容が実現度のみになっています。）
- ・高、保護者アンケートについては、具体的な「評価の視点」を示すことで、基準を明確にし、より客観性を高めるよう取り組みました。

- ・「重要度」「実現度」を同時に尋ねる形式をとることで、「重要であるのに実現度が低い」（ニーズ度が低い）などの課題が分かりやすくなります。
- ・重要度・実現度の最高値は7、ニーズ度の最高値は49です。重要度6.4以上、実現度4.6未満を網掛けにし、ニーズ度25以上を重点課題と捉えています。

◆保護者集計表一覧

	質問文	重要度	実現度	ニーズ度
確かな学力	1 子どもが意欲的に取り組める授業であること	6.8	4.8	21.8
	2 子どもが学習の基礎・基本の力を身につけていること	6.8	4.6	23.1
	3 教師が子ども一人一人にわかる授業をするよう心がけていること	6.5	4.6	22.1
	4 自分の思いや考えをわかりやすく書いたり話したりできること	6.6	3.9	27.1
	5 子どもに本を読む習慣があること	6.2	4.0	27.3
	6 子どもがていねいに家庭学習に取り組んでいること	6.4	4.1	25.0
豊かな心	7 子どもが途中であきらめず、学習に対して最後まで粘り強く取り組むこと	6.6	4.4	23.8
	8 子どもが進んであいさつすること	6.7	4.3	24.8
	9 学校が子ども一人一人を大切にしたい学校づくりをしていること	6.6	4.3	24.4
	10 きまりや約束事を守る指導を進めること	6.7	4.7	22.1
	11 子どもが人に対する思いやりや心のこもったこと	6.8	4.7	22.4
	12 家族の中で仕事の役割があり、しっかり守っていること	6.2	4.0	24.8
健全な体	13 家族の中で子どもとのふれあいや対話の時間をもつこと	6.7	4.9	20.8
	14 子どもが毎日バランスよくしっかり朝食をとること	6.6	4.2	25.1
	15 子どもが早寝・早起きすること	6.6	4.0	26.4
	16 子どもが好きな食べ物でも何でも食べること	6.2	4.5	21.7
	17 子どもが健康や体を大切にしている指導を進めること	6.5	4.8	20.8
	18 学校がPTAや地守り隊の方々や力を合わせ、子どもたちの安全を守っていること	6.5	5.1	18.9
学校独自の取組	19 学校の教育方針や取組が、地域・保護者に伝わっていること	6.3	4.6	21.4
	20 学校が家庭や地域と連携して活動すること	6.2	4.7	20.5
	21 学校・PTA、地域の行事が保護者として参加しやすい活動となっていること	6.0	4.4	21.6

◆児童集計表一覧（3～6年）

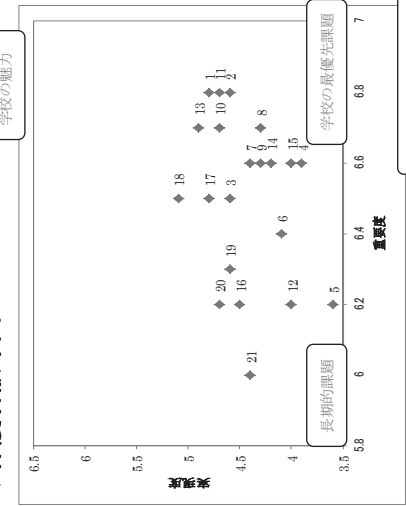
	質問文	重要度	実現度	ニーズ度
確かな学力	1 先生の指示がよく分かること	6.7	5.6	16.1
	2 授業中に先生の言われたことがほとんどできること	6.5	5.5	16.3
	3 自分の思いや考えを発表しようとする	6.3	4.8	20.2
	4 先生や友達の話をしっかり聞くこと	6.6	5.8	14.5
	5 進んで読書すること	6.3	5.2	17.6
	6 家の人に自分の思いを伝えること	6.3	5.5	15.8
	7 毎日、決まった時間、家庭で学習すること	6.0	4.7	19.8
	8 いろいろなことにめあてをもって努力すること	6.4	5.4	16.6
	9 いろいろなことにねばり強く努力すること	6.4	5.4	16.6
	10 進んであいさつすること	6.6	5.7	15.2
豊かな心	11 自分も友達も大切にすること	6.8	6.3	11.6
	12 学校生活を楽しく過ごすこと	6.5	5.9	13.7
	13 学校・学級の「きまり」や「やくそく」を守ること	6.6	5.6	15.8
	14 友達となかよくすること	6.7	6.4	10.7
	15 家で、手伝いをすること	6.3	4.9	19.5
	16 係活動やそうじをまじめにすること	6.5	5.7	15.0
健全な体	17 毎日、バランスよくしっかり朝食を食べること	6.6	5.8	14.5
	18 毎日、早寝・早起きすること	6.5	4.8	20.8
	19 好き嫌いなく、給食を食べること	6.6	5.7	15.0
	20 いつも健康に過ごせるよう、体を大切にすること	6.7	6.1	12.7
	21 安全（交通・防犯）に気をつけること	6.8	6.3	11.6
	22 地域のみなさんと交流すること	6.1	5.0	18.3
23 地域やPTAの行事に参加すること	5.9	4.9	18.3	

散布図の番号は、質問文の番号と対応しています。

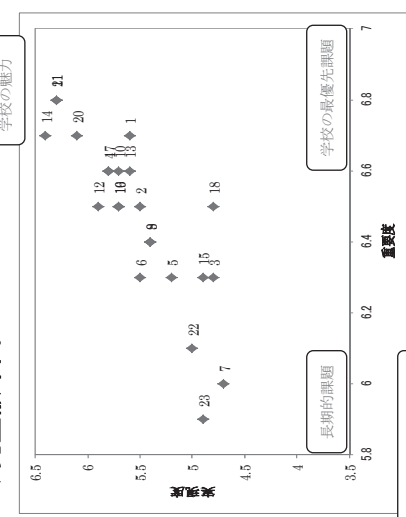
前期と比べて「↑」増えた「↓」減った「ー」同じ

前期と比べて「↑」増えた「↓」減った「ー」同じ

◆保護者散布図



◆児童散布図



★保護者・児童のアンケートから

児童アンケートでは、実現度4.6未満の項目はなく、そのためにニーズ度も2.5以上になる項目はありませんでした。前期と比べて各数値の上がり下がりや矢印で表しています。また、矢印の右側の数字は、どれだけ変化しただけを表しています。保護者・児童アンケートともに前期と比べるとほとんどの項目において変わりがありません。変わっても0.1ポイントの変化にとどまるという結果になりました。その中で、保護者アンケートの「子どもが早寝・早起きすること」の実現度は、大きく変化がありました。前期から比べると0.7ポイントも下がりました。重要度は前期と変わらず高いままです。早寝・早起きは大切なことだと思われているが、前期に比べてできなくなっていると考えられている保護者の方が増えていると言えます。それに対して、児童の早寝・早起きに対する意識は、0.1ポイントしか前期と変わらない結果になっています。ただ、全体的に児童の実現度の値は高いのですが、早寝・早起きの値は、低い値になっています。児童は前期の時から早寝・早起きがあり、あまりできていないと考えていたと考えられます。また、生活見直し週間の結果も夏休み明けに比べると冬休み明けの方が寝る時刻が遅い児童が増えています。先日、行われた学校保健委員会でも、上のお子さんのペーパーに合わせて弟や妹まで寝る時刻が遅くなっているという声が保護者の方から出ていました。もちろん、ご家庭によってさまざまな原因があると思います。睡眠には、疲労回復や免疫力アップ、集中力などの脳機能のアップ、体の成長など成長期の子どもにも欠かせない働きがあります。学校でも「早寝・早起き」の大切さについて指導してきますのでご家庭でも「早寝・早起き」に努めていただけたらと思います。

保護者アンケート「学校が家庭や地域と連携して活動すること」の実現度は0.3ポイント上がり、児童アンケートでは、「地域やPTAの行事に参加すること」の実現度は0.3ポイント下がっています。今年度のPTA主催の秋の「親子フェスティバル」では、おやじの会の企画や保健体育委員会の学年対抗大縄大会もあり、これまでにない盛り上がりでした。また、2月に行われた連合会、子ども育成会主催の「おもちゃつき」では、過去最高の量のお餅があつという間になくなるほどの賑わいでした。保護者の方は、日頃の見守りなどの活動も含め、学校とPTA、地域の連携を感じていただいているのではないのでしょうか。

学力面においても実現度があまり変わっていません。変化がないからよいわけではありません。特に自分の思いを表現することにに関しては、低いままで。日常会話の中でも意識して自分の思いを伝える力を付けることができます。今年度の取組を見直し、自分の思いを表現することをはじめとした様々な学力の向上を目指したいと考えています。

☆自由記述欄から（一部抜粋）

- ・いつもお世話になり、ありがとうございます。毎日楽しそうに通学しており、大変嬉しく思っております。今後ともよろしくお願ひします。
- ・6年間ありがとうございました。子どもは、のびのび育っています。
- ・いつも先生方やPTA・地域の皆様に見守っていただき、安心して楽しく学校へ通わせていただいています。

【学習・家庭学習】

- ・学習意欲のムラが出てきて親子でロゼンカシながらというところもあるので気がつけようと思っています。
- ・なかなか学習に対して意欲がでず、自ら進んで向き合えていないのが現実です。常々、学力の心配はあります。残り勉強等でのフォローアップに頼っている状態です。
- ・基礎問題が確実に分かり、解けるようにもう少し勉強の量を増やしてもらいたいと思います。分からないまま進んでいっているのでは、大丈夫かとも心配になっています。

授業中の学習は、授業中にやり切るように努めています。中には休み時間や放課後に個別で指導しています。しかし、定着させることを考えると家庭学習は不可欠です。計算や漢字などの基礎的な内容を中心に宿題を出して定着を目指しています。家庭学習の目安は、学年×10～15分と考えています。まずは、毎日決まった時間学習することの習慣化を図りたいです。そして、高学年になるに従い、自主学習の量と質を向上させたいです。そのために、学校では仁和版「自学自習構想」「自主学習のすすめ」をもとに友達の自主学習ノートを紹介して、よい学習の仕方が広まるようにしています。今年一度、学校と家庭が協力して児童の学力向上を目指したいと思います。

【ホームページ】

- ・前回、アンケート時にホームページをもっとUPしてほしいとお願ひしたら、すぐに実現していただき、毎回楽しく拝見しております。

【あいさつ】

- ・毎日楽しそうに通学しており、親として嬉しく思います。PTA活動の登校時に校門で声かけ当番の際に気になっっているのですが、高学年ほどあいさつができていないのが残念に思う点です。
- ・「元気にあいさつ」これができていない子どもが多いのが気になる点です。
- ・大きくなるにつれてはずかしという気持ちが出てきて、なかなかあいさつをしなくなってきました。

⇒ 毎朝、あいさつが課題として上がってきています。学校長の話や学級指導の中で、児童会のあいさつ運動など様々な場面であいさつについて考えたり、働きかけたりしています。しかし、残念ながら多くの児童が進んであいさつをしているとはいえません。思春期に入る高学年の時期、あいさつをしなくなることもあるかもしれませんが、低学年のお手本になれるよう引き続き指導していきます。

【家庭で】

- ・ゲームや習い事で寝る時間が遅くなっている、学校でねむくなくなっているか気になっている。もう一度見直して学校できちんと勉強できるように生活リズムを整えていきたいです。
- ・生活のリズムやあいさつをすることは、家庭での日常の積み重ねだと思おうので、親も気をつけなければならぬと改めて思いました。
- ・もうすぐ高学年になることもあり、少しずつ成長してきているのもわかり、嬉しく思う反面、学習面や他の物事について、自分の都合のよいように折り合いをつけてしまうこともあります。親子で考えなければいけない時期がなかのなかと思うこの頃です。

⇒ このアンケートを機会にご家庭でのことを振り返っていただき、ありがとうございます。家庭での生活基盤がしっかりしてこそ、子どもたちは安心して学習したり遊んだりできると思います。学校と家庭が歩調を合わせて取り組んでいきたいと考えています。ご協力をよろしくお願ひします。

☆学校運営協議会理事・企画推進委員の皆様より（一部抜粋）

- ・いつでも子どもたちの心に寄り添ったご指導をいただいているので、安心して学校環境だと思っています。
- ・おうちのことやお仕事でなかなか学校へ来られれないと思いますが、もつと学校での子どもたちの姿をたくさん保護者の方に見ていただきたいと思いました。
- ・登校時、まだ眠たそうであいさつもほとんどしません。時間にルーズになってきています。まなび教室でも完全下校時5分前から帰る準備の声かけをしています。動き出すのは10分以上たつてからです。
- ・久しぶりに自由参観に行きました。児童の集中力の高さ、私語のないこと感心しました。他のクラスでは、自学自習でのノートを見ました。質の高さ、テーマの見つけ方にびっくりしました。ノートいっぱい書かれている文字に興味や関心があることがわかり、見ているのも楽しかったです。ただ、いつも残念に思うのは、帰りの声かけ当番の時に児童から声を出してくれることが、ほとんどありません。最近では、こちらからの声かけに対しての反応が全くなりが増えているので淋しく思います。下校のチャイムが鳴ってから門を出るまでの時間がかなりすぎているように思います。
- ・いつも連合会活動に対してご理解・ご協力賜りありがとうございます。今の私の立場からですと学校・PTA等の情報が少ないと思います。もつと情報を共有のできる仕組みを考えていければと思います。仁和小学校の子どもたちにとつて今の連合会の取組がプラスになっているのか、何が足りないか、また、必要のないものはないか等、検証する為にも連合会と学校、PTAとの情報の共有は必要だと思います。

***たたくさんのご意見をいただきました。今後の仁和教育に生かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。**

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(仁和小学校)

1 1回目評価

<p>・個別評価項目の設定及び各項目にわたる定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定</p>		<p>自己評価 平成28年8月22日 職員会</p>		<p>学校関係者評価 平成28年11月11日 学校運営協議会 学校評議員</p>	
分野	<p>評価項目 授業内容の工夫・改善</p>	<p>(前年度評価を踏まえた) 自校の取組 ・授業を伴う研究の充実 ・全教科、領域において言語活動の充実を図る</p>	<p>分析 (成果と課題) ・多くの教科で全市平均を下回っている。 ・まず、基礎・基本の力を付けなければならぬ。 ・保護者実現度は、昨年度同時期より0.5下がった。</p>	<p>学校関係者による意見 ・学力が下がってきているの は心配であり、学校と家庭が協力してほしい。 ・漢字検定にたくさんの子が 申込をしているのは喜ばしい。 ・保護者の実現度が低いのは残念だが、重要度自体が低いことも考えないといけない。 ・わが子は家で宿題をした ら終わりであとは何もしていない。 ・昔は宿題の量が多かった から減ったように思う。</p>	<p>学校関係者による意見 改善に向けた支援策 ・3年の社会科「昔の道具」や5年の家庭科の「ミシン補助」などに対して支援を継続していく。</p>
確かな学力	<p>読書活動の充実 ・図書館活用計画に基づいた取組と学校司書の活用 ・朝読書の取組 ・担任以外による読み聞かせ ・学校独自の読書100冊の取組</p>	<p>図書活動の充実 ・図書館活用計画に基づいた取組と学校司書の活用 ・朝読書の取組 ・担任以外による読み聞かせ ・学校独自の読書100冊の取組</p>	<p>児童の実現度3.7 児童の実現度5.3</p>	<p>保護者の実現度は高いのだが、保護者の値はとも低い値になっていて、意識のずれがある。 ・学校では、本を読んでいる児童が多いが、家庭では、他にすることがなくあり、読書をあまりしていないと考えられる。</p>	<p>保護者の実現度は高いのだが、保護者の値はとも低い値になっていて、意識のずれがある。 ・学校では、本を読んでいる児童が多いが、家庭では、他にすることがなくあり、読書をあまりしていないと考えられる。</p>
豊かな心	<p>家庭学習の習慣化 ・学校便りや学年便りなどによる発信 ・懇談会での働きかけ ・仁和版「自学自習構想」と「自学自習のすすめ」の発行</p>	<p>家庭学習の取組 ・学校便りや学年便りなどによる発信 ・懇談会での働きかけ ・仁和版「自学自習構想」と「自学自習のすすめ」の発行</p>	<p>児童の実現度4.2 児童の実現度4.8</p>	<p>保護者、児童ともに家庭学習がしっかりとできていないことは考えられない。 ・取組の徹底度合いに違いがある。</p>	<p>保護者、児童ともに家庭学習がしっかりとできていないことは考えられない。 ・取組の徹底度合いに違いがある。</p>
豊かな心	<p>「公共の精神」に基づく態度の育成 ・あいさつ・返事・望ましい言葉遣いの徹底</p>	<p>心を育む取組 ・心を育む日 ・学校生活のまじりの作成</p>	<p>児童の実現度4.7 児童の実現度6.2 児童の実現度6.2 児童の実現度4.7 児童の実現度5.6 児童の実現度4.4 児童の実現度5.8</p>	<p>・全学年で、学習状況調査の結果より自己肯定感の高い児童が多いが、なかにはとても低い児童もいる。 ・大きくきまりや約束から遊離することは少ないが、高学年になると、時間をかけての指導が必要となる。 ・児童は、あいさつができていて、考えているが、保護者は、あまりできていないと答えている。 ・見守り隊などの地域のからもあいさつができていないという事があり、教職員も不十分であると答えている。</p>	<p>・子どもたちが仲良くできているのはよいことである。 ・子どもたちの自己評価に甘さがあるようだ。 ・あいさつができていて、児童もできる子に育ってほしい。 ・登下校の見守りなどでも大人も手本になるように積極的に声をかけていく。</p>
健康やかな体	<p>自他を大切にする態度の育成 体力向上</p>	<p>生活見直し週間の実施 ・健康便りや給食便りなどによる発信 ・にこにこタイムの取組 ・めあてを明確にした朝マラソンの実施</p>	<p>児童の実現度4.4 児童の実現度4.7 児童の実現度5.8 児童の実現度4.9 児童の実現度5.8 児童の実現度6.1</p>	<p>児童は、朝食をしっかりと食べているが、保護者は、そう考えていない。 ・生活見直し週間の結果によると、早く起きることができている児童は多いが、高学年になると、寝る時間が遅くなっている。 ・保護者も児童もできていないと答えている。 ・生活見直し週間で「元気」上と答えている児童が81%</p>	<p>・子どもたちの寝る時刻が遅くなってきているのは心配。 ・大人自身の生活が遅くなってきている。 ・元気が過剰している子どもが多いのはよいことである。 ・6年生は大文字駅伝の予選をがんばってほしい。</p>
独自の項目	<p>地域・PTAと協力した取組</p>	<p>各教科や総合的な学習の時間などの地域と連携した学習 ・見守り隊による登下校の安全指導、見守り</p>	<p>児童の実現度4.4 児童の実現度4.4 児童の実現度5.1 児童の実現度5.2</p>	<p>・PTAや地域の行事が精選されつつあり、児童の参加人数が増えている。このことを保護者にも積極的に発信していく。</p>	<p>・今年、PTAや地域の行事に参加する子ども数が増え、喜んでいる。 ・保護者の参加も増えてきている。</p>

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(仁和小学校)

2 2回目評価

分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度未までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
		・個別評価項目の設定及び各項目にわたる取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定	
授業内容の工夫・改善		・授業を伴う研究の充実 ・全教科、領域において言語活動の充実を図る	・ジョイントプログラム、ジョイントプログラム、研究フェスタの結果 ・教師が子どもたち一人一人にわかる授業をするよう心がけていること
確かな学力	読書活動の充実	・図書館活用計画に基づいた取組と学校図書を活用 ・朝読書の取組 ・担任以外による読み聞かせ ・学校独自の読書100冊の取組	・子どもにも本を読む習慣があること ・進んで読書すること
	家庭学習の習慣化	・学校便りや学年便りなどによる発信 ・懇話会での働きかけ ・仁和版「自学自習構想」と「自学自習のすすめ」の発行	・家庭での様子をみている ・保護者は、読書の習慣があまりないと思っている ・子どもが本を読んでいること
	「公共の精神」に基づく態度の育成	・心を見つめる日の取組 ・学校のさまじりの作成	・友達関係はよいと考えている児童が多い。また、保護者もよい評価である。 ・細かなきまりを守れていない現状もある。
	豊かな心	・あいさつ・返事・望ましい言葉遣いの徹底 ・児童会による働きかけ ・あいさつ運動の取組	・児童会が主体となり、さらに低学年を巻き込んだ児童会活動を企画している必要がある。
	自他を大切に育する態度の育成	・生活原直し週間の実施 ・保健便りや給食便りなどによる発信 ・にこにこタイムの取組	・児童の結果は前期と変わらずがなかったが、早寝早起きに対する保護者の意識が大きく下がった。低学年から遅くまで起きている様子がある。
	健やかな体	・めあてを明確にした朝マラソンの実施	・休み時間になると運動場で遊ぶ児童が多く、引き続き外遊びを推奨していく。
	地域・PTAと協力した取組	・各教科や総合的な学習の時間などの地域と連携した学習 ・見守り隊による登下校の安全指導、見守り	・さらにPTAや地域に対して親子で参加する家庭が増えるように情報発信に努める。

3 総括・次年度の課題

「自ら進んで考え、発表し話し合い、互いの考えを高め合える子の育成」を実現するために来年度も引き続き、算数科を中心にして授業研究を進めていきたい。さらに道徳の授業の在り方についても研究し、児童の豊かな心を育む取組を実践していきたい。
 また、規則正しい生活を送ることや家庭学習を丁寧に行うことなど家庭の教育力を高めるために学校から情報を発信していかなければならない。

アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	評価日	評価者・組織
		平成29年2月10日	職員会
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策	
多くの学年、教科で全市平均を下回った。保護者満足度4.6	・低学年では、全市平均を上回るものが多くが「高学年」になるにつれて下回っている。 ・全市平均を下回っているが、6年生は上向きな結果である。		
保護者満足度3.6 児童満足度5.2	・家庭での様子をみている ・保護者は、読書の習慣があまりないと思っている ・子どもが本を読んでいること	・読書の大切さについて引き続き家庭に発信していく。	
保護者満足度4.1 児童満足度4.7	・家庭学習に対して保護者と児童ともにできていないと考えている。	・家庭学習の大切さについて保護者に懇話会などで伝えていく。	
保護者満足度4.7 児童満足度6.4	・友達関係はよいと考えている児童が多い。また、保護者もよい評価である。 ・細かなきまりを守れていない現状もある。	・SSTの取組を全校で実施することで児童のコミュニケーション能力を高める。「くちまね」やいじめアンケートの結果を生かす。	
保護者満足度4.3 児童満足度5.7	・児童はあいさつができていないと考えている保護者も少なくない傾向にある。	・高学年が主体となり、さらに低学年を巻き込んだ児童会活動を企画していく必要がある。	
保護者満足度4.2 児童満足度4.0	・児童の結果は前期と変わらずがなかったが、早寝早起きに対する保護者の意識が大きく下がった。低学年から遅くまで起きている様子がある。	・保健便りなどで早寝・早起き、朝ごはんの大切さについて家庭に発信するとともに学級指導を継続していく。	
保護者満足度4.8 児童満足度4.8	・保護者も児童もできていないと考えている。	・休み時間になると運動場で遊ぶ児童が多く、引き続き外遊びを推奨していく。	
保護者満足度4.7 児童満足度4.9	・家庭や地域との連携に対して保護者の意識が上がった。PTAや地域の行事の参加者が増えている。	・さらにPTAや地域に対して親子で参加する家庭が増えるように情報発信に努める。	

評価日	評価者	学校関係者評価
平成29年3月9日	学校運営協議会 学校評議員 学校評議員	
学校関係者による意見	・学校運営協議会、学校評議員による改善に向けた支援策 ・引き続き、授業支援など協力していくのを要望してほしい。 ・漢字検定に多くの児童が合格したのうれしいことである。	・読書の大切さを家庭に伝えてほしい。 ・家庭でもっと学習を見ようになりたい。
これからのまのよいか子どもたちでいてほしい。	・子ども同士や親子がかわられるように地域やPTAの取組を行ってほしい。	・遅く寝ることで朝が起きられず、元気が出ないのも一因、家庭が気を付けなければならぬ。
低学年の子も寝る時刻が遅くなっているのは、上の子の時間に合わせるための子どもも起きているのがある。	・ゆめの森の改修をおやじの会がおこなってよかった。たくさんの子がさらに遊んでほしい。	・創立150周年記念事業に向けて協力していきたい。

学校評価のねらい

学校教育目標実現のため、教職員による自己評価、児童による評価を通して、学校教育活動の改善点を明らかにすると同時に、保護者・地域の方による評価を行い、自己評価に客観性を持たせ、学校や教育に対する見方や考え方を別の視点から検証する。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間 年 間	4	教育指導計画書の作成		
	5	学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討		
	6		第1回開催 学校運営協議会による 評価項目の検討 (学校関係者評価)	
	7			
	8			
	9	児童へのアンケート } 教職員評価の実施 } 保護者アンケート }		
	10	学校評価の分析 ← 後期方針の検討 ←	第2回開催 学校運営協議会による 評価の実施 (学校関係者評価)	
	11			学校だより、HP で結果・ 改善策を公表
	12			
	年 間	1	児童へのアンケート } 教職員評価の実施 } 保護者アンケート }	
2		学校評価の分析 ← 改善策の検討 ←	第3回開催 学校運営協議会による 評価の実施 (学校関係者評価)	
3		次年度方針の共通理解		学校だより、HP で結果・ 改善策を公表

京都市 学校教育の重点

目指す子ども像 伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども

重視する視点 子どもの主体性と社会性の育成を目指して「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高める

学校教育の基本指針 確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた育成

学校教育目標

心豊かに未来を拓く、心身ともにたくましい子

目指す子ども像

- 向上心をもち、自分の夢の実現に向けて努力する子
- 自分で考え、自分の意志で行動する子
- 自ら課題を見つけ、進んで学ぶ子
- 自分を大切にし、思いやりの心をもって共に生きる子
- 安全や健康に関心をもち、よりよい行動がとれる子

目指す学校像

～通いたい、通わせたい、勤めたい学校～

- 子どもの命と安全を守りきる学校
- 一人一人が認められ、誰もが安心して生活できる学校
- 日々の活動が充実感や満足感につながる学校
- 家庭や地域と共に教育活動を進める学校

目指す教職員像

- 高い人権意識のもと、一人一人の子どもを徹底的に大切にする教職員
- 教育公務員としての高い志と使命感をもち、子どもの育ちに責任をもつ教職員
- 自分の役割を理解し、組織を支え、互いに高め合う教職員
- よりよい人間関係を築き、誰からも信頼される教職員

◎学校教育の基本方針

確かな学力の育成に向けて

- 授業の充実
- 学習規律の定着
- 問題解決学習や探究活動の充実
- 学習課題と指導，指導と評価の一体化
- よりよい学習集団の育成
- つけたい力を明確にした言語活動の充実
- 基礎的，基本的な知識・技能の習得と活用
- LD等支援が必要な子どもの学力向上
- 家庭学習の充実

豊かな心の育成に向けて

- 道徳教育の充実
- 豊かな感性・情操を育む教育の充実
- 規範意識の育成
- 支えあい高め合う集団作りの推進と絆づくり

健やかな体の育成に向けて

- 運動やスポーツの実践と体力の向上
- 保健教育の充実
- 食に関する指導の推進
- 安全教育の充実
- 防災教育・防災管理の充実
- 安全管理の徹底

◎今年度の重点

- 人権教育をベースとした教育実践
- 学校運営協議会の充実→地域との連携強化
- 業務の効率化→ICT活用，会議の持ち方の工夫等

京都市立桃山南小学校の学校評価について

1 評価のねらい

- 保護者の子どもを育む当事者としての意識を高めると共に、学校教育の成果と課題を地域住民と共有することで、学校・保護者・地域が一体となった「地域ぐるみの教育」の推進を図る。
- 学校教育目標の具現化に向けた行動目標についての自己点検を通して、教育活動の更なる充実と改善を図る。

2 重点評価項目

①確かな学力

- ・主体的な学習態度の育成
- ・家庭学習の習慣化

②豊かな心

- ・自己有用感の育成
- ・豊かな人間関係の構築

③健やかな体

- ・安全に対する関心意欲態度の向上
- ・基本的な生活習慣の育成
- ・運動の習慣化と体力の向上

④独自の取組

- ・将来展望に基づく向上心の育成
- ・自己判断力・自己決定力の向上

3 評価手法

- ・児童・教職員・保護者に対してアンケートを実施した。3者ともに同じ内容についての項目を設定し、児童に対しては達成度を、教職員と保護者に対しては児童に対する指導や声掛けの様子について答える形式とした。
- ・アンケートの結果に加えて、全国学力・学習状況調査、京都市小中一貫学習支援プログラムの結果や、日々の教育活動の中での見取り、PTAや学校運営協議会からの意見も参考に分析した。

4 アンケート結果等による分析

(1) 将来展望に基づく向上心の育成について

本校は素直で従順な児童が多い。しかし、自分に自信がもてないために自分が正しく判断していてもついつい周りに流され行動に表せない、また、自主性・自発性が十分ではないために指示には素直に従うが自ら進んで行動を起こすような前向きな姿勢が少ないといった現状がある。そこで、学校教育目標にも掲げている「たくましさ」の実現のために、児童が「将来の夢」など具体的な展望をもって、その実現に向け、何事においても目標をもって努力することの大切さを一貫して伝えている。

アンケートの結果からは、「自分の将来の夢をもち、いろいろなことに目標をもって取

り組んでいる」という項目において、児童の肯定的な回答は低学年（本アンケートでは1～3年生）では81.7%（前期86.4%）、高学年（本アンケートでは4～6年生）では78.5%（前期74.1%）であった。保護者による子どもへの働きかけについては、69.2%（前期64.7%）となっており、学校教育目標に対して歩調を合わせようとしていただいている様子が見えることは大変喜ばしいことであり、子どもが良い方向へ変容していることに繋がっていると理解している。

また、「いろいろなことに積極的にチャレンジしている」という項目では、肯定的な回答をした児童の割合が、低学年で86.2%（前期88.9%）、高学年で85.3%（前期67.4%）で、特に高学年での上昇が目立っている。これは、働きかけを「よくできている」と答えた教職員の割合が、前期の45.0%から58.8%に増加したことから、先述の項目同様、大人からの働きかけによる効果が表れた例と考える。

（2）確かな学力について

本校の課題の一つに「学力の向上」があげられる。授業中の様子はどの学年も比較的落ち着いた雰囲気ではあるが、各種調査テストの結果等では全市や全国の平均値に至らないものが大半である。教育効果という点でも現状は容認しがたく、ここ数年にわたり学校の喫緊の課題として教職員の意識改革と共に授業改善を中心とした取組を進めているが、まだまだ道半ばである感は否めない。上の項目でも記述したように、本校児童の実態として自主性や主体性に欠ける面があり、それが受け身的な学習態度に表れ結果に繋がらない原因となっているのではないかと考えた。そこで、長年取り組んできている国語科を研究教科とした校内研究の取組を充実させ、授業改善を進めることで児童の学力向上に繋がりたいと考えた。具体的には、単元を貫く言語活動を取り入れた単元構成を工夫し、子どもが意欲的に学習に臨めることに重点を置き、やらされる学習から自分から進んで取り組む学習への発展を目指した。他にも、全ての教科の全体的な授業のレベルアップに繋げる方策として「桃山南の学習スタンダード」を提示し、学習環境の整備を図ることや、基礎基本の定着と主体的な学習態度を培う場として帯学習の見直しや家庭学習の充実を図ることに力を入れた。

アンケート結果からは、「授業中に自分の考えを進んで発表している」という項目で、児童の肯定的な回答が前期との比較で低学年で2.4ポイント、高学年で3.9ポイントと増加している面もあったが、「毎時間のめあてに向かって前向きに学習に取り組んでいる」という項目では、保護者や教職員の働きかけの数値が向上しているにもかかわらず、児童の回答が低学年・高学年共に2ポイント程度落ち込んでいた。もちろんいろいろな要因が関与しているであろうが、その二点の相関からは子どもへのアプローチの仕方に検討の余地があることが伺われる。また、「自分から進んで宿題や家庭での学習をしている」という項目では、児童の自己評価で高学年が低学年に比べて肯定的な回答が少なくなるという状況が前期と後期で変わりなく、保護者の声掛けについても、後期も前期と同じような数値となる結果であった。子どもの学力の保障において、家庭学習の重要性と共に自主的な学習態度の大切さも、しっかり保護者に伝えていくことが必要であろう。

5 自己評価

学校評価実施報告書（45ページ）を参照

6 学校関係者評価

(1) 「確かな学力」の分野について

- ・学校からの説明にもあったように、素直で従順な子どもが多いのは確かであるが、自分から進んで物事に取り組んでいくような逞しい面については十分ではないように見受けられる。それが学力に表れているという点にもうなずける。
- ・楽しいと思える授業で子どもを育ててほしい。教師のレベルアップを図ることが大切である。
- ・学校はもちろんであるが、たとえば家庭において親が働きかけ、子どもに好奇心をもたせることが学習への意欲に繋がるのではないか。手をかけずして、いい育ちは期待できないものである。
- ・地域としてもできることはしっかりと協力していきたい。いろんな情報をHP等で流してほしい。

(2) 「豊かな心」の分野について

- ・最近、道で出会った子どもが挨拶をしてくれることが増えた。児童会の挨拶運動や学校の指導がいい方向に働いているようだ。
- ・地域の公園や道路でのきまりやマナーが守れていない子どもがいるのが気になる。

(3) 「健やかな体」の分野について

- ・家庭での関わりが子どもの育ちに大きく影響する。最低限のしつけや優しさなどは人任せではなく親が責任をもって教えてほしい。
- ・地域の公園で子どもが遊んでいる姿をよく目にするが、集まってゲームをしていることが多く、体を動かしての遊びが不足しているように感じる。

(4) 「独自の取組」の分野について

- ・何か憧れをもって過ごすということは大変素晴らしいことだと思う。その対象は年齢と共に変わっていてもいいが、いつもその憧れがあるということが大切である。
- ・いろいろな体験が子どもたちを大きく育てる。毎年同じことを経験させるのではなく、今の子どもたちにどんな体験が必要なのかを考えていかなければならない。

7 総括・次年度に向けた課題等

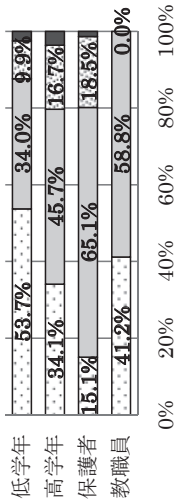
- ・評価項目について、小中連携の観点から、桃山中学校ブロックでの共通の項目を設定したい。
- ・今年度は教職員と保護者については、「働きかけ」について問う形式のアンケートを行った。その結果、学校運営方針や家庭教育の重要性について、より深くご理解いただくきっかけになったと考えているが、さらに具体性をもたせるために、次年度では実現度についても問う形式を検討する。
- ・学校評価結果を児童・教職員・保護者・地域で共有し、具体的な改善策を通して、より良い学校運営に繋げていきたい。



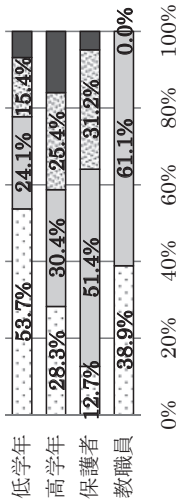
今年もよいよ残りわずかなどになりましたが、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本校教育活動にご理解ご協力ご協力申し上げます。さて、前期末に行いました学校評価アンケートの結果についてご報告いたします。今年度より、「児童」「保護者」「教職員」のそれぞれの自己評価の形のアンケート調査にすることで、自分自身を振り返り、取組や関わりを見直す視点が見えやすくなりました。今回の結果を、今後の児童の学習や生活への関わり方につなげていきたいと思います。

【確かな学力】

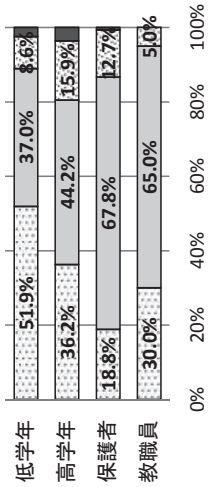
毎時間のめあてに向かって前向きに学習に取り組んでいる



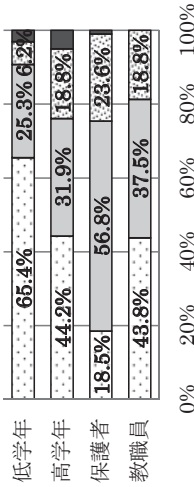
授業中に自分の考えを進んで発表している



人の話を最後までしっかり聞いている



自分から進んで宿題や家庭での学習をしている

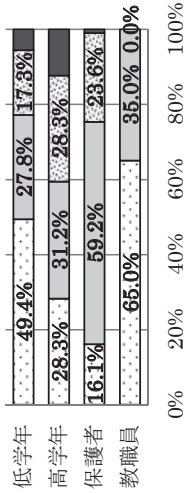


「聞く川」については昨年度とあまり変わりありませんでしたが、「発表」については全体として約10%上昇しました。しかし、高学年になるにつれて積極的に発表しにくくなる傾向が見られそれは「前向きに～」の項目でも見られました。進んで発表することに対しての働きかけについては、30%余りの保護者の方が「あまりできていない」というお答えでした。高学年になっても保護者の方の励ましや、意欲につながります。また、家庭での学習についても、ご家庭での支援により取り組める児童も多いです。今後引き続き、ご支援のほどお願いいたします。

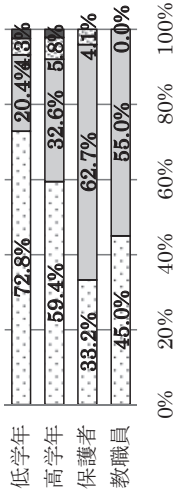
また、学校においては、もっと知りたい、学びたいと主体的に学習に向かう意欲を育てるような働きかけや授業の工夫とともに、自分の考えに自信をもち、安心して話せる雰囲気づくりや場の設定等、工夫を続ける必要があると考えます。

【豊かな心】

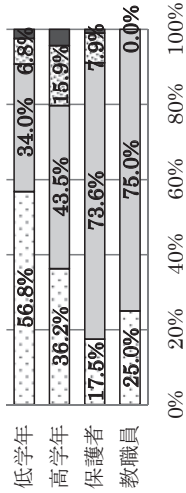
自分のいいところと言える



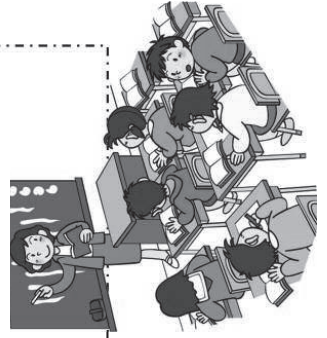
友だちを大切にし、仲良くしている



自分から進んでいろいろなルールを守っている



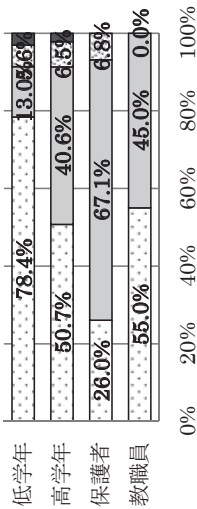
「仲良く」の結果から、ほとんどの児童が思いやりや生活でできていることがわかります。残り1割の児童への働きかけを大事にしなが、今後児童の様子をしっかりと見取っていきます。「自分のいいところがある」ということは低学年高学年ともに低い値でした。保護者の方においては、約25%が「子どもの良さを認めほめる」ことができているという結果でした。まず、教職員や保護者の皆さんが児童のいいところを認め児童に伝えることが必要であると考えます。また、生活や学習の中で児童が「できた」と実感できるような体験を増やし、一人一人が活躍できるような場を設定したりすることで、児童の自尊心を高めていきたいと思います。



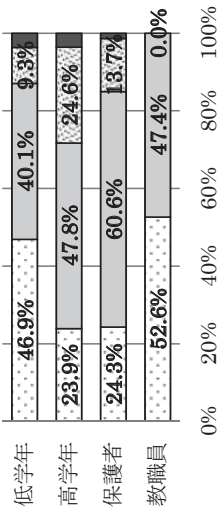
よくできている (点線) 大体よくできている (斜線) あまりできていない (格子) できていない (黒)

【健やかな体】

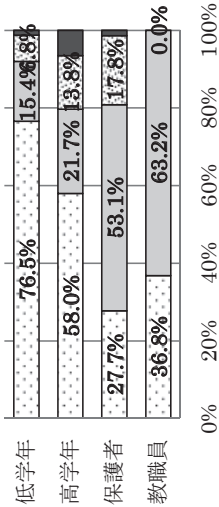
自分で身の回りの危険について考え、安全に生活できるように気を付けている



「早寝、早起き、朝ごはん」や整理整頓、身の回りの清潔など、衛生的で規則正しい生活を送っている



いろいろなスポーツや外遊びなどで進んで体を動かしている

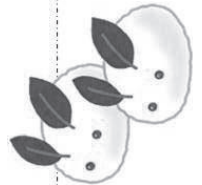


多くの児童が安全に気を付けて生活できています。また、保護者の方も児童が安全に生活できよう働きかけてくださっていることが分かり、ありがたく思います。「基本的な生活習慣」については、高学年になるにつれて低くなっていきます。塾や習い事で忙しくなってしまうだけでなく、テレビやゲームの影響も考えられます。児童がもっている力を十分に発揮するためには、睡眠時間の確保や栄養の摂取が不可欠です。ご家庭と連携を取りながら児童が健康で精一杯活動できるように支援していきたいと思っております。

【自由記述より】

- ・参観や学校の行事に親が参加することで、親としてどういうことを子どもにも働きかけたらいのかかわりました。それに気づいたのは、ここ最近です。学校は子どもたちだけのものではないということを、改めて感じました。できるだけ、学校の取り組みに賛同し、子どもに向き合っていきたいと考えています。
- ・研究授業等で下校が早い日などは、もう少し早くせめて1ヶ月前にはつきりわかれば助かります。
- ・設問は働きかけているのですが、働きかけているの実現度が高くて実際の行動の実現度が低いので、回答に悩みます。

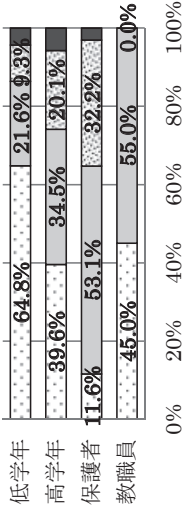
等、たくさんのご意見をいただきました。皆さんからのご意見は教職員で話し合い、今後子どもたちへの指導や取組内容の検討や見直しをして、本校の教育活動に生かしていきたいと思っております。



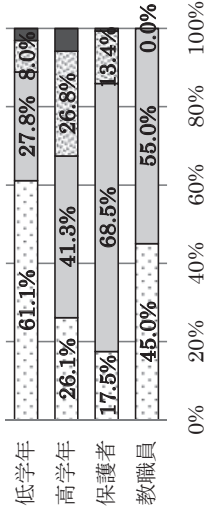
ご協力ありがとうございました

【将来への展望】

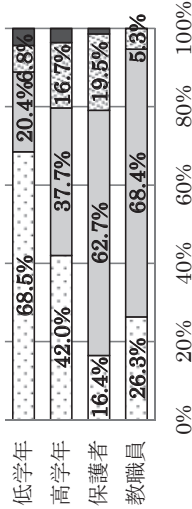
自分の将来の夢をもち、いろいろなことに目標をもって取り組んでいる



いろいろなことに積極的にチャレンジしている



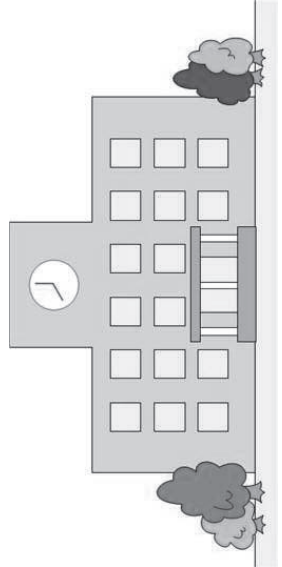
自分で決められることは自分で決めるようにしている



多くの児童が、将来の夢をもち、目標をもって取り組むことができている一方、約35%の保護者の方が、働きかけていないというお答えでした。子どもたちが目標をもちその実現に向けて努力を続けるためには、ご家庭の後押しが必要ですが、今後もしっかりと働きかけを強め、子どもたちを応援して頂けると嬉しいです。

「チャレンジ」については、高学年の値が低くなっています。失敗や間違いをマイナスと捉えない環境作りが必要であると考えます。

また、児童が自分で考え、決定し、行動するために、やってみただけで終わらせず、またやってみようということができるようになるゆとりがある計画の中で、様々な活動に取り組みようとしていきたいと思っております。



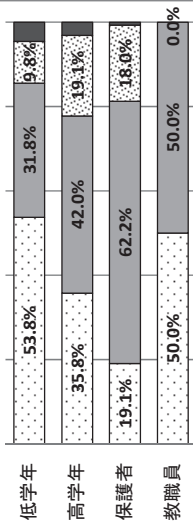


今年度もいよいよ残りわずかとなりましたが、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本校教育活動にご理解ご協力をくださり、厚くお礼申し上げます。さて、2月に行いました学校評価アンケートの結果についてご報告いたします。今回も自分自身を振り返り、取組や関わりを見直す視点から明らかにするために、「児童」「保護者」「教職員」のそれぞれの自己評価の形でを行いました。お忙しい中ご協力ください。以下のとおりご報告させていただきます。

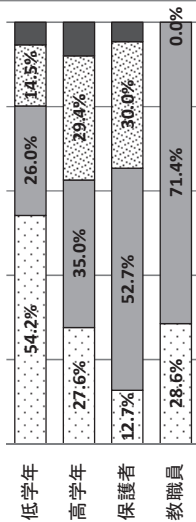
(文中の割合の上昇・減少は、前期結果との比較です。)

【確かな学力】

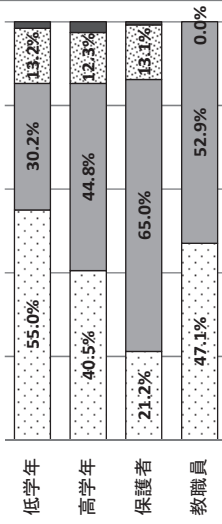
① 毎時間のあてに向かって前向きに学習に取り組んでいる



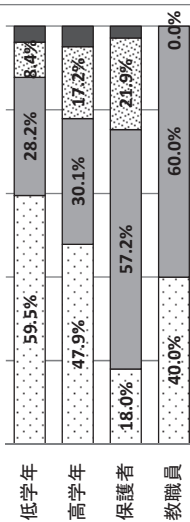
② 授業中に自分の考えを進んで発表している



③ 人の話を最後までしっかり聞いている



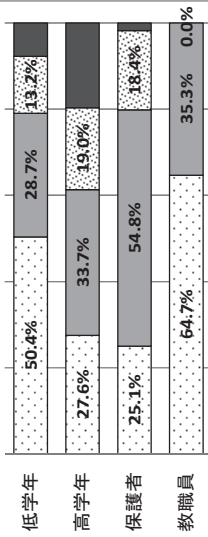
④ 自分から進んで宿題や家庭での学習をしている



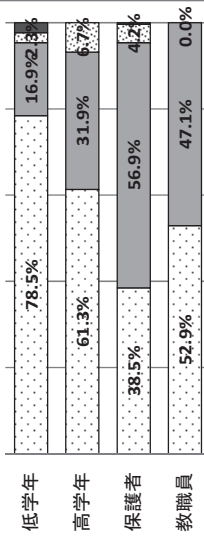
①の『前向きに学習』について、児童の結果はあまり変わりませんでしたが、働きかけについては「よくできている」の割合が保護者が4%、教職員が10%上昇していました。②の『発表』については、「よくできている」の割合が低学年で1%、高学年で4%上昇していました。働きかけも保護者3%、教職員17%の上昇が見られました。しかし、④の『家庭での学習』については、低・高学年ともに「できている」の割合が減少し、働きかけの状況もほとんど変化が見られませんでした。学校での学習については、児童が自ら課題をもち進んで学習に取り組み、宿題の出し方や取組への働きかけの工夫を取り組んでいます。保護者の皆様におかれましても子どもたちの家庭での学習の様子にさらに目を向け、子どもたちに日常の中で学習に向かう習慣がつかえますようご協力をお願いします。

【豊かな心】

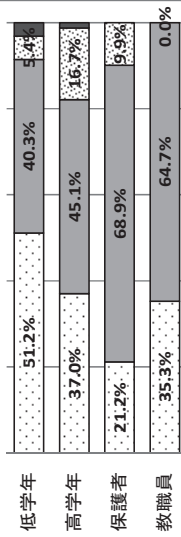
① 自分のいいところと言える



② 友だちを大切に、仲良くしている



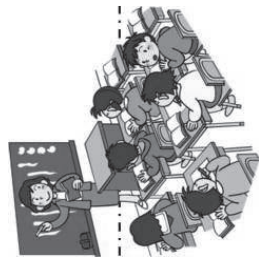
③ 自分から進んでいろいろなルールを守っている



①の『自分のいいところと言える』については、「できる群」の割合が低・高学年ともに約2%上昇しました。働きかけが「よくできている」の割合が保護者で約9%、教職員で5%の上昇が見られたことから、児童の自己肯定感も高まっているのではないかと考えます。一人一人の児童が胸を張って自分のいいところを言えるよう、まずは大人が子どもたちのいいところを見つけて認めていく努力を、続けていきたいと思えます。

②の『仲良く』については、前回とあまり変化は見られませんでした。しかし、「できている」と答えている児童の思いをくみ取れるよう、誰もが大切にされる学校作りを目指して児童の様子をしっかりと見取っていききたいと思います。

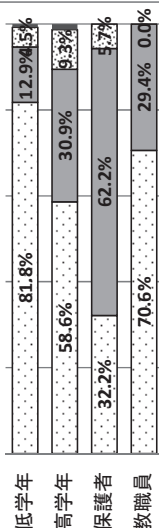
③『きまりやルールを守る』については、「できている」の割合が高学年で2%上昇しました。今後も、人、場所、時によってぶれない指導を学校、家庭、地域で連携し、進めていきたいと思います。



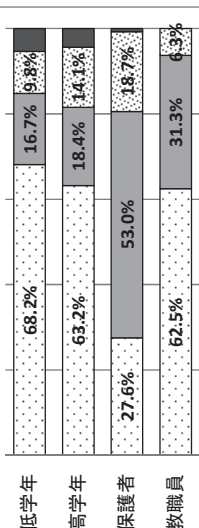
よくできている 大体できている
あまりできていない できていない

【健やかな体】

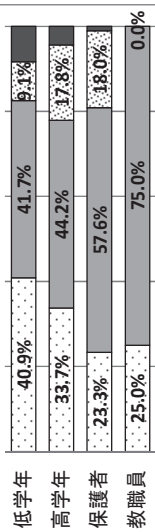
① 自分で身の回りの危険について考え、安全に生活できるように気を付けている



③ いろいろなスポーツや外遊びなどで進んで体を動かしている



② 「早寝、早起き、朝ごはん」や整理整頓、身の回りの清潔など衛生的で規則正しい生活を送っている



①の結果から、今回も多くの児童が安全に気を付けて生活できていると答えています。しかし、大人から見ると危ないと感じる行動もまだ見られます。正しい判断をし安全に生活できる見よう、指導を続けます。また、保護者の方の働きかけについても、「よくできる」の割合が6%上昇しておりありがたいと思います。②の『規則正しい生活』について「できる群」の割合が、高学年で10%上昇しているのに対し低学年では6%減少しています。保護者の方の働きかけも「できていない群」が約5%上昇しています。また、③の『進んで体を動かす』についても、低学年の「できる群」が7%減少しています。低学年には保護者の方の働きかけが必要となります。今後はご家庭と連携を取りながら児童が健康で精一杯活動できるように支援していきたいと思えます。

【自由記述より】

朝、できる限り家の前で集団登校の見送りをしています。昨年の春は児童に挨拶をしても「何、このおばちゃん…」という感じでしたが、もうすぐ1年たつ今、小さな声でも「おはようございます」と言ってくれるようになりました。うれしいです。ほめてあげてください。

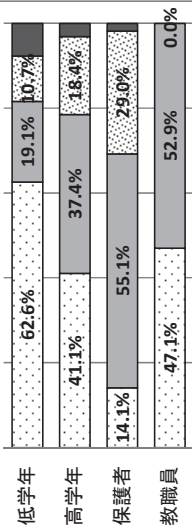
子どもにも、前向きに様々なことにチャレンジして自信をつけてほしいと願いつつも、ついつい口うるさくなるこの方が多くなり、上手にほめたり気持ちの高めてあげられたいと反省しました。

トレが汚すきます。廊下まで悪臭がして不衛生です。

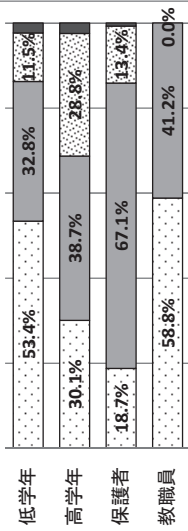
この他にも、たさんのご意見をいただきました。トレについては何度か業者にも入ってもらい改善を試みておりますが、清掃状況に関わらず構造の問題で改善が難しい状況です。今後も改善に向けて取組を続けてまいります。その他の皆さんからのご意見についても、教職員で話し合い、今後子どもたちへの指導や取組内容の検討や見直しをして、本校の教育活動に生かしていきたいと思えます。

【将来への展望】

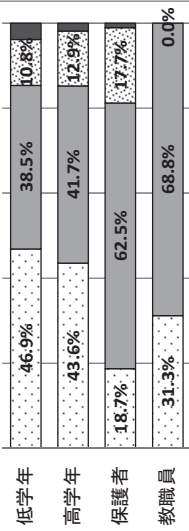
① 自分の将来の夢をもち、いろいろなことと目標をもって取り組んでいる



② いろいろなことに積極的にチャレンジしている



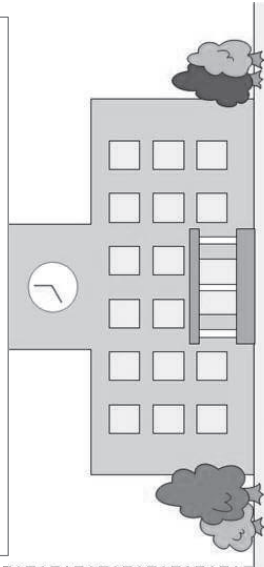
③ 自分で決められることは自分で決めるようにしている



①の『将来の夢をもち目標をもって取り組む』について、「できる群」の割合が低学年ではわずかに減少しましたが、高学年では5%の上昇が見られました。合わせて保護者の働きかけも「できる群」が約5%上昇しており、ご家庭へのしるを大切に受け止めて頂いていることが分かります。うれしく思います。

②の『チャレンジ』については、教職員の働きかけの「よくできている」が13%上昇しているのにも関わらず児童の結果に変化は見られませんでした。働きかけの内容・方法を見直し、児童がのびのび、生き生き活動できるように努めます。

③の『自分で決める』については、高学年の「できる群」が約6%上昇しましたが、保護者・教職員共に「できる群」が上昇していません。今後児童が安心して自分で考え行動できるように見守り支えたいと思います。



協働力 ありがとうを言いました

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(桃山南小学校)

1 1回目評価

<ul style="list-style-type: none"> 個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 		<p>自己評価</p> <p>評価日 平成28年10月14日</p> <p>評価者・組織 学校評価委員会</p>	
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
授業改善	主体的な学習態度の育成 学力を支える基礎・基本の力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 主體的な学習態度の育成 学力を支える基礎・基本の力の定着 年間6回の研究授業と支部発表 1年から6年までの発達に 応じて系統立てた内容の設定 学年だよりによる啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が毎時間のめあてに向 かって前向きに学習に取り組 むよう指導を進めている。 (教職員) 自分から進んで宿題や家庭 での学習をしている。
確かな学力	二ヶ年合カ(コミュニ ケーション能 力)の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の発表の後、児童司 会での感想交流 授業の形態の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 「発表」関くとも、昨年度 とあまり変わらなかった。しか し、どちらも高学年の評価の 方が低い結果であった。 「発表」に関して、積極的に 行う児童とそうでない児童が 高学年になるにつれて、固定 化してしまっている。
豊かな心	「公共の精神」 に基づく態度の 育成	<ul style="list-style-type: none"> 学校のきまりの見直しと共 通理解の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年の方が守れている こと。自分をしっかり振り返る ことができているとも考えられ るが、一方できまりに対する 感覚が甘くなっている様子も 見られる。 児童会のあいさつ運動の取 り組みが、充実してくと共に に、児童同士でも挨拶を交わ したり返したりする姿が見ら れるようになってきた。
豊かな心	あいさつの日常 化	<ul style="list-style-type: none"> 学校・保護者、地域の方々 による登校指導 児童会、PTAのあいさつ運 動 	<ul style="list-style-type: none"> 「守っている」児童の割 合は高学年79%低学年 91% 「よくできている」児童の割 合は高学年99%低学 年78% 「聞いている」児童の割 合は高学年80%低学 年89%
健全な体	自他を大切にす る態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> なかまの日の設定 道徳の時間の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「仲間良い」児童の割 合は高学年92%低学年93% 「自分のいいところがある」 児童の割合は高学年59%低 学年77% 「進んで体を動かしている」 児童の割合は高学年 80%低学年92%
健全な体	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化 運動の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間の様子 部活動参加状況 いろいろなスポーツや外遊びな ど進んで体を動かしている
独自の項目	将来への展望	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した体験活動 の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「目標をもって取り組んでい る」児童の割合は高学年 74%低学年86% 「チャレンジしている」児童 の割合は高学年67%低学年 89%



<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施結果、 その他指標の結果に ついて整理 		<p>自己評価</p> <p>評価日 平成28年10月14日</p> <p>評価者・組織 学校評価委員会</p>	
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析結果	分析を踏まえた改善策
<ul style="list-style-type: none"> 「よくできている」割合は 41%「大体できている」の割 合は59% 「前向きに学習に取り組 んでいない」児童の割合は高学 年21%低学年12% 「家庭での学習をしている」 児童の割合は高学年 76%低学年80% 「家庭での学習習慣が身 に付くように働きかけてい る保護者の割合は75% 	<ul style="list-style-type: none"> 教員全員がめあてを明 確にし、児童がそこに向 かっための工夫をして授 業に臨んでいる。 「宿題」に関しては、ほとん どの児童がきちんとでき るようになった。しかし、自分 の力ではこなせきれない 児童も見られる。 「発表」関くとも、昨年度 とあまり変わらなかった。しか し、どちらも高学年の評価の 方が低い結果であった。 「発表」に関して、積極的に 行う児童とそうでない児童が 高学年になるにつれて、固定 化してしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「よくできている」割合は 41%「大体できている」の割 合は59% 「前向きに学習に取り組 んでいない」児童の割合は高学 年21%低学年12% 「家庭での学習をしている」 児童の割合は高学年 76%低学年80% 「家庭での学習習慣が身 に付くように働きかけてい る保護者の割合は75% 	<ul style="list-style-type: none"> 「まだ前向きに取り組めて いない児童に焦点をあて て指導の仕方を振り返り、 修正していく。 「画一的な宿題の出し方では なく、基本の宿題+個に応じ た内容・量の課題に取り組め るような方法を工夫する。 「家庭での取り組みを支援し てもらえるよう、保護者との連 携を密にする。 「学校生活の中でしっかりと いて自分で考え行動する場 面を意図的に設定するように するとともに小さなことでも見 る児童の発言をしっかりと受け止 め、話しておかした、もつと話 したいという思いを育むよう にする。
<ul style="list-style-type: none"> 「守っている」児童の割 合は高学年79%低学年 91% 「よくできている」児童の割 合は高学年99%低学 年78% 「聞いている」児童の割 合は高学年80%低学 年89% 	<ul style="list-style-type: none"> 「発表」関くとも、昨年度 とあまり変わらなかった。しか し、どちらも高学年の評価の 方が低い結果であった。 「発表」に関して、積極的に 行う児童とそうでない児童が 高学年になるにつれて、固定 化してしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「守っている」児童の割 合は高学年79%低学年 91% 「よくできている」児童の割 合は高学年99%低学 年78% 「聞いている」児童の割 合は高学年80%低学 年89% 	<ul style="list-style-type: none"> 「まだ前向きに取り組めて いない児童に焦点をあて て指導の仕方を振り返り、 修正していく。 「画一的な宿題の出し方では なく、基本の宿題+個に応じ た内容・量の課題に取り組め るような方法を工夫する。 「家庭での取り組みを支援し てもらえるよう、保護者との連 携を密にする。 「学校生活の中でしっかりと いて自分で考え行動する場 面を意図的に設定するよう になるとともに小さなことでも見 る児童の発言をしっかりと受け止 め、話しておかした、もつと話 したいという思いを育むよう にする。
<ul style="list-style-type: none"> 「仲間良い」児童の割 合は高学年92%低学年93% 「自分のいいところがある」 児童の割合は高学年59%低 学年77% 「進んで体を動かしている」 児童の割合は高学年 80%低学年92% 	<ul style="list-style-type: none"> 「仲間良い」児童の割合は 高学年92%低学年93% 「自分のいいところがある」 児童の割合は高学年59%低 学年77% 「進んで体を動かしている」 児童の割合は高学年 80%低学年92% 	<ul style="list-style-type: none"> 「仲間良い」児童の割 合は高学年92%低学年93% 「自分のいいところがある」 児童の割合は高学年59%低 学年77% 「進んで体を動かしている」 児童の割合は高学年 80%低学年92% 	<ul style="list-style-type: none"> 「まだ前向きに取り組めて いない児童に焦点をあて て指導の仕方を振り返り、 修正していく。 「画一的な宿題の出し方では なく、基本の宿題+個に応じ た内容・量の課題に取り組め るような方法を工夫する。 「家庭での取り組みを支援し てもらえるよう、保護者との連 携を密にする。 「学校生活の中でしっかりと いて自分で考え行動する場 面を意図的に設定するよう になるとともに小さなことでも見 る児童の発言をしっかりと受け止 め、話しておかした、もつと話 したいという思いを育むよう にする。



<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施結果、 その他指標の結果に ついて整理 		<p>自己評価</p> <p>評価日 平成28年11月9日</p> <p>評価者 (いずれか○) 学校運営協議会 学校評議員</p>	
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析結果	分析を踏まえた改善策
<ul style="list-style-type: none"> 「よくできている」割合は 41%「大体できている」の割 合は59% 「前向きに学習に取り組 んでいない」児童の割合は高学 年21%低学年12% 「家庭での学習をしている」 児童の割合は高学年 76%低学年80% 「家庭での学習習慣が身 に付くように働きかけてい る保護者の割合は75% 	<ul style="list-style-type: none"> 教員全員がめあてを明 確にし、児童がそこに向 かっための工夫をして授 業に臨んでいる。 「宿題」に関しては、ほとん どの児童がきちんとでき るようになった。しかし、自分 の力ではこなせきれない 児童も見られる。 「発表」関くとも、昨年度 とあまり変わらなかった。しか し、どちらも高学年の評価の 方が低い結果であった。 「発表」に関して、積極的に 行う児童とそうでない児童が 高学年になるにつれて、固定 化してしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「よくできている」割合は 41%「大体できている」の割 合は59% 「前向きに学習に取り組 んでいない」児童の割合は高学 年21%低学年12% 「家庭での学習をしている」 児童の割合は高学年 76%低学年80% 「家庭での学習習慣が身 に付くように働きかけてい る保護者の割合は75% 	<ul style="list-style-type: none"> 「まだ前向きに取り組めて いない児童に焦点をあて て指導の仕方を振り返り、 修正していく。 「画一的な宿題の出し方では なく、基本の宿題+個に応じ た内容・量の課題に取り組め るような方法を工夫する。 「家庭での取り組みを支援し てもらえるよう、保護者との連 携を密にする。 「学校生活の中でしっかりと いて自分で考え行動する場 面を意図的に設定するよう になるとともに小さなことでも見 る児童の発言をしっかりと受け止 め、話しておかした、もつと話 したいという思いを育むよう にする。
<ul style="list-style-type: none"> 「守っている」児童の割 合は高学年79%低学年 91% 「よくできている」児童の割 合は高学年99%低学 年78% 「聞いている」児童の割 合は高学年80%低学 年89% 	<ul style="list-style-type: none"> 「発表」関くとも、昨年度 とあまり変わらなかった。しか し、どちらも高学年の評価の 方が低い結果であった。 「発表」に関して、積極的に 行う児童とそうでない児童が 高学年になるにつれて、固定 化してしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「守っている」児童の割 合は高学年79%低学年 91% 「よくできている」児童の割 合は高学年99%低学 年78% 「聞いている」児童の割 合は高学年80%低学 年89% 	<ul style="list-style-type: none"> 「まだ前向きに取り組めて いない児童に焦点をあて て指導の仕方を振り返り、 修正していく。 「画一的な宿題の出し方では なく、基本の宿題+個に応じ た内容・量の課題に取り組め るような方法を工夫する。 「家庭での取り組みを支援し てもらえるよう、保護者との連 携を密にする。 「学校生活の中でしっかりと いて自分で考え行動する場 面を意図的に設定するよう になるとともに小さなことでも見 る児童の発言をしっかりと受け止 め、話しておかした、もつと話 したいという思いを育むよう にする。
<ul style="list-style-type: none"> 「仲間良い」児童の割 合は高学年92%低学年93% 「自分のいいところがある」 児童の割合は高学年59%低 学年77% 「進んで体を動かしている」 児童の割合は高学年 80%低学年92% 	<ul style="list-style-type: none"> 「仲間良い」児童の割合は 高学年92%低学年93% 「自分のいいところがある」 児童の割合は高学年59%低 学年77% 「進んで体を動かしている」 児童の割合は高学年 80%低学年92% 	<ul style="list-style-type: none"> 「仲間良い」児童の割 合は高学年92%低学年93% 「自分のいいところがある」 児童の割合は高学年59%低 学年77% 「進んで体を動かしている」 児童の割合は高学年 80%低学年92% 	<ul style="list-style-type: none"> 「まだ前向きに取り組めて いない児童に焦点をあて て指導の仕方を振り返り、 修正していく。 「画一的な宿題の出し方では なく、基本の宿題+個に応じ た内容・量の課題に取り組め るような方法を工夫する。 「家庭での取り組みを支援し てもらえるよう、保護者との連 携を密にする。 「学校生活の中でしっかりと いて自分で考え行動する場 面を意図的に設定するよう になるとともに小さなことでも見 る児童の発言をしっかりと受け止 め、話しておかした、もつと話 したいという思いを育むよう にする。

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(桃山南小学校)

2 2回目評価

<ul style="list-style-type: none"> 個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 		自己評価	平成29年2月27日	学校評価委員会
分野	評価項目	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
授業改善	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	<ul style="list-style-type: none"> 児童が毎時間のめあてに向かって前向きに学習に取り組むよう指導を進めている。(教職員) 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、教職員共に働きかけている割合が上昇しているが、児童の状況に变化が見られない。働きかけの内容や方法の見直しが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間のめあてと成果が児童にとって明確である授業、一人一人が意欲的に取り組む授業の構築に努める。
確かな学力	家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> 1年から6年までの発達に応じて系統立てた内容の設定 学年だよりによる啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の働きかけは19%上昇したが保護者は変化なし 児童にも変化がみられず、家庭学習に関しては、保護者の働きかけが大きく関わると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを見ていると、自分から進んでやっていくところが多い。 そばにいた大人が、子どもにいかにか好奇心を持たせるかが大切。
	伝え合う力(コミュニケーション)の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の発表の後、児童司会での感想交流会 授業の形態の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 発表している児童の割合は高学年63%低学年80% 「聞いた」児童の割合は高学年85%と上昇、低学年85% 	<ul style="list-style-type: none"> 道で子どもに会ったとき、挨拶してくれる子どもが増えてきた。
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学校から進んでいるいるなきまりやルールを守っている 	<ul style="list-style-type: none"> 「守っている」児童の割合は高学年89%と上昇、低学年91%で変化なし 	<ul style="list-style-type: none"> 地域、保護者、学校の三位一体で子どもは育てるもの。そのためには、地域力を高めなければならぬ。
	あいさつの日常化	<ul style="list-style-type: none"> 学校、保護者、地域の方による登校指導 児童会、PTAのあいさつ運動 	<ul style="list-style-type: none"> 「声をだす」児童の割合は高学年99%低学年95% 「自分のいいところを言える」児童の割合は高学年61%低学年79% 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育がしっかりとできると自然とできるようになる。最低限のしつけと優しさを教えてほしい。
健やかな体	自他を大切にす態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> なかまの日の設定 道徳の時間の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のいいところを言える割合は高学年99%低学年95% 自分のいいところを言える児童はまだ少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 認めてもらって自信をつけることが大事。地域の中で、小さなことでもほめていきたい。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化 運動の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生の体力テストの結果で、全市平均より低い種目が多く、児童の体力をつける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> イベント的なことだけでなく子どもの体力向上につながるような行事も企画していく。
独自の項目	将来への展望	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「目標をもつて取り組んでいる」児童の割合は高学年79%低学年82% 「チャレンジしている」児童の割合は高学年67%低学年89% 	<ul style="list-style-type: none"> 何かあこがれるものを持っていることが大切。それ自体は変わっていいのもよい。



3 総括・次年度の課題

- 今年度3者の自己評価の形で行ったことで、それぞれが自分を直すきっかけとなった。しかし、児童の実態が数値として見えづらくなってきたため、来年度は、実現度も合わせた学校評価アンケートを行いたい。
- 学力の向上のために、授業改善に取り組むと共に、教員の指導力向上につながる取組を校内研究を中心に充実させる。
- 年度当初に、教職員の共通理解をしっかりと図り、時・場・人によってぶれることのない指導を行う。

学校評価のねらい

- 学校教育目標の実現に向けた今年度重点等を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さを知り、学校運営の改善につなげる。
- 説明責任を果たし、保護者や地域の方々からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携・協力による学校づくりを進める。
- 学校評価の結果を踏まえて、学校運営の改善を図るとともに、教育委員会の支援のもとに、教育水準の保証・向上を図る。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中 間 年 間	4	教育指導計画書の作成		
	5	学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討		
	6	土曜参観 保護者アンケート	第1回学校運営協議会 学校教育方針の説明	
	7	三者懇談 保護者アンケート 生徒アンケート 教職員自己評価の実施		
	8	評価結果の分析 今後の方針の検討		
	9		第2回学校運営協議会 学校評価の実施	学校ホームページにて結果 と改善策を公表
	10			
	11		第3回学校運営協議会	
	12	三者懇談 保護者アンケート 生徒アンケート 教職員自己評価の実施		
	1	評価結果の分析 改善策の検討	第4回学校運営協議会 学校評価の実施	
	2			学校ホームページにて結果 と改善策を公表
	3	次年度の方針の共通理解	第5回学校運営協議会 学校教育の成果と課題	学校ホームページにて成果 と課題を公表

学校教育目標

京都市立桃山中学校

◆学校教育目標

一人一人を徹底的に大切にし、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する

◆生徒像（次代と自らの未来を切り拓く生徒）

- ・主体的に学ぶ生徒
- ・社会性のある生徒
- ・明るく健康な生徒

◆学校像

- ・開かれた学校づくり
学校と家庭・地域との相互の信頼と協働の関係を構築する。
- ・明るく元気な学校づくり
笑顔の絶えることなく、あいさつができ、歌の唄える学校。
- ・規範意識の高い学校づくり
学校も社会の一員であることを自覚して、ルールや道徳心を心掛けた学校。
- ・「和」を尊重した学校づくり
学校のすべての人間が、信頼とやり甲斐のある関係を構築する。
- ・美しい学校づくり
日常の美化活動の推進と共に教育環境の整備された学校。

◆教職員像（「専門職」としての力量を高めることに貪欲な教職員集団）

- ・子どもへの愛情や慈しむ心を大切にする教職員
- ・授業力を高め、授業改善を恒常的に行う教職員
- ・目標を明確にして、効果的展開を繰り返す教職員
- ・生徒の「生きる力」を育む教職員
- ・自己研鑽（OJT）に励み、他者の評価を謙虚に受け入れられる教職員
- ・リーダー（主任）の強力な牽引により組織的に活動する教職員

◆学校経営方針

- 1 子どもの命を守りきる
- 2 学校の組織力を強化する
- 3 学ぶ意欲にあふれ規律ある学校風土を創る
- 4 子どもが生きる将来社会を見据え、キャリア発達を支援する
- 5 教育者としての責任を自覚するとともに、その専門性を高める
- 6 小中一貫教育など校種間連携を推進する
- 7 保護者・地域（学校運営協議会の活用強化）との連携を推進する
- 8 子どもや家庭に対する総合的・継続的支援を行う
- 9 学校評価を活用して、教育活動の改善を図る
- 10 健康的で明るい学校づくりを推進する

学校教育目標

一人一人を徹底的に大切にし、
知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する

目指す生徒像（次代と自らの未来を切り拓く生徒）

主体的に学ぶ生徒	社会性のある生徒	明るく健康な生徒
<p>学ぶ意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いに学び合い、教え合う生徒集団 家庭学習を習慣化させて、復習・予習に力を注ぐ生徒 <p>学習規律の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 元気よくあいさつする生徒 しっかりと話を聞き、自ら発表する生徒 <p>コミュニケーション能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識をつかい、知恵をもつ生徒 言語活動を充実させ、生き活きと学ぶ生徒 <p>キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き方を追及できる生徒 確かな進路展望のもてる生徒 <p>評価の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価を活用して、自らの学習改善を行える生徒 	<p>規範意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳的実践力をもつ生徒 人権意識を高くもち、互いの人権を尊重する生徒 <p>読書活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書を通して、豊かな心を育てている生徒 <p>生徒会活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治意識をもち、互いに高め合う生徒 地域との絆を深め、地域と共に歩む生徒会 <p>地域との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に地域行事やボランティア活動に参加できる生徒 	<p>基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全に留意して行動する生徒 食文化を大切にする生徒 性や薬物に対して正しい理解をもつ生徒 <p>学習環境の整理・整頓</p> <ul style="list-style-type: none"> 美化意識をもち、学習するための環境を整えようとする生徒 <p>防災意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災意識を高くもち、自他の命を守ろうとする生徒 <p>体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育授業や体育行事を通じて体力の向上を目指す生徒

知識→ある事項について知っていること、または、その内容
知恵→ものごとの理を悟り、適切に処理する能力

目指す教職員像

- 子どもへの愛情や慈しむ心を大切にする教職員
- 授業力を高め、授業改善を恒常的に行う教職員
- 目標を明確にして、効果的展開を繰り返す教職員
- 生徒の「生きる力」と「自己管理能力」を育む教職員
- 自己研鑽（OJT）に励み、他者の評価を謙虚に受け入れられる教職員
- リーダー（主任）の強力な牽引により組織的に活動できる教職員

共育

連携

- 地 域（学校運営協議会との連携強化）
- 地域を学びの場として、地域に生きる桃中生を、地域とともに育てる
- P T A ・ 家 庭
- 学校・家庭が、ともに成長を見守り、育てる（P T A 活動の充実）
- 各種関係機関
- 市教育委員会・児童相談所・桃山学園・所轄警察（スクールサポーター）等との連携の中で、健全に育てる

桃山中学校の学校評価について

1 評価のねらい

- 学校教育目標の実現に向けた重点を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適正さを知り、学校運営の改善につなげる。
- 説明責任を果たし、保護者や地域の方々からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携・協力による学校づくりを進める。
- 学校評価の結果を踏まえて、学校運営の改善を図るとともに、教育委員会の支援のもとに、教育水準の保障・向上を図る。

2 重点評価項目

- ・確かな学力（授業改善・家庭学習の習慣化・読書の習慣化）
- ・豊かな心（「公共の精神」に基づく態度の育成・自主自律心の向上・美化活動の推進）
- ・健やかな体（自他を大切にする態度の育成・体力の向上）
- ・独自の項目（小中一貫教育の推進・情報発信の充実）

3 評価手法

- ・生徒（年2回／7月，2月実施）・保護者（年3回／6月，7月，2月実施）・教職員（年2回／7月，2月実施）を対象としてアンケートを実施。
- ・その他に、全国学力・学習状況調査等の結果及び日々の教育活動や生徒の様子を踏まえて分析。

4 アンケート結果等による分析

（1）授業改善について

アンケート結果によると、「授業はわかりやすい」「学習でわからないことがあれば、先生に尋ねたり、テスト前の学習会や質問会に参加して解決している」という質問に対して、生徒・保護者とも約9割が「出来ている」と回答している。授業者による「本時の目標」の提示が徹底されていることや、アクティブラーニングの手法を取り入れた形態での授業を実施することにより、「わかる授業」と「学び合う授業」を展開できていることが窺える。

（2）自主自律心の向上について

アンケート結果によると、「委員会・係の活動をしっかりしている」という質問に対して、生徒・保護者ともに90%以上が「出来ている」と回答している。生徒会活動や委員会活動を充実させることが、生徒の自主性や自律心を育てる事に繋がっている。また、機会あるごとに関係生徒を面前に立たせ、生徒の自主企画と自主運営を試みた取組が生徒の主体的行動へとあらわれている。

（3）他人を大切にする態度の育成について

アンケート結果によると、「挨拶をきちんとしている」という質問に対して、約9割の生徒が、「出来ている」との回答を得ている。保護者の立場でも、出来ているとする保護

者が多数いる一方で、子どもたちが家庭外で「あいさつ」をどの程度しているのか把握出来ていないとの声や無回答もあった。

教職員や生徒会本部役員が率先して取り組んだ「あいさつ運動」は、取組の経過とともに、周囲の生徒に実践が波及し、自然にあいさつ出来る生徒が増えた。

5 自己評価

学校評価実施報告書（54ページ）を参照

6 学校関係者評価

学校運営協議会の意見として、以下のような評価があった。

①「確かな学力」について

- ・全国学力・学習状況調査において、B問題のポイントが高いことは評価できるが、更に考えるための基本となるA問題を解くための力をつけ、バランスの取れた学力を目指して欲しい。
- ・家庭での学習習慣を高めて学力向上を目指すためにも、学校・家庭・地域の働きかけで習慣化できるよう、協力体制を整えていくことが大切。

②「豊かな心」について

- ・生徒が主役となって活躍する姿の多いことは素晴らしいことで、ますます生徒による自治を進めて行って欲しい。
- ・通学電車マナー等がよく問題にされているが、学校に任せるだけでなく、しつけは保護者の責任であり、地域が支えるものである。

③「健やかな体」について

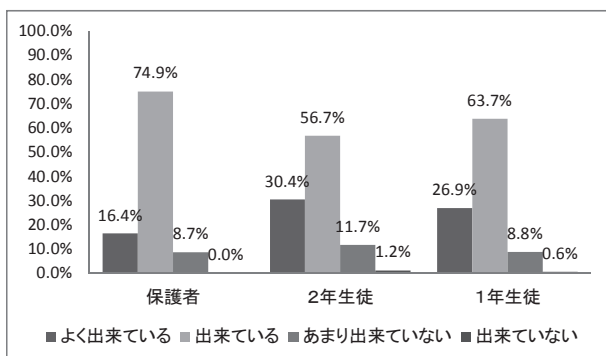
- ・あいさつ運動を地域でも広げていきたい。
- ・部活動も熱心に指導していただいて、活躍する部があるのは生徒には良い刺激であり、地域としても誇らしい。

7 総括・次年度に向けた課題等

- ①中学校ブロックとしての評価となるよう、小中学校の共通のアンケート項目を増やし、9年間の視野に入れた取組にしていく。
- ②保護者への評価アンケートの内容について、学校教育活動に間接的に関わる立場からの視点だけでなく、保護者自身が子どもの教育にどのような関わりを持っているかを問うことにより、学校と保護者の協働意識を向上させたい。
- ③本年度、本校の学校運営協議会に校下3小学校の学校長に理事として参画していただくとともに、本中学校の学校長が3小学校の学校運営協議会に参加して、中学校区としての目標・共通課題を共有した。今後、中学校ブロックとしての観点から、学校運営協議会の充実を図っていきたい。
- ④中学校ブロックの「小中一貫教育構想図」に基づき、更なる小中一貫教育の充実と発展を目指す。

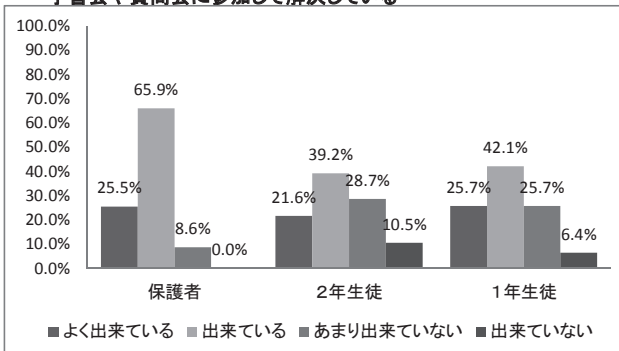
保護者・生徒を対象とするアンケート結果＜一部抜粋＞の傾向（実現度）

1 授業はわかりやすい



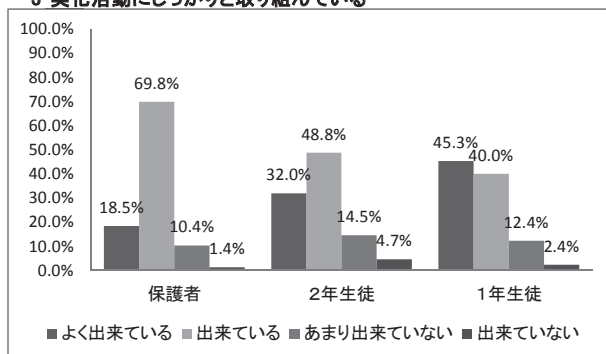
・ 生徒・保護者とも、全体的に「授業はわかりやすい」と感じている。

2 学習でわからないことがあれば、先生に尋ねたり、テスト前の学習会や質問会に参加して解決している



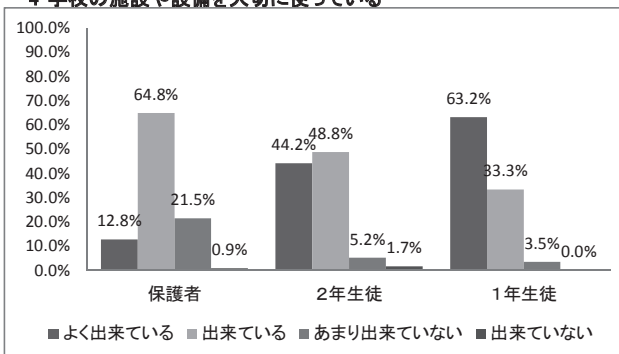
・ 生徒ら本人の「出来ている」意識よりも、保護者の意識の方が高い。

3 美化活動にしっかりと取り組んでいる



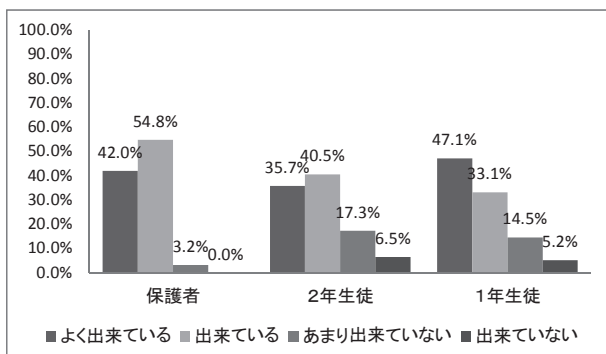
・ 生徒ら本人の「出来ている」意識よりも、保護者の意識の方が高い。
 ・ 生徒の中でも、1年生の方が2年生よりも「出来ている」意識は高い。

4 学校の施設や設備を大切に使いしている



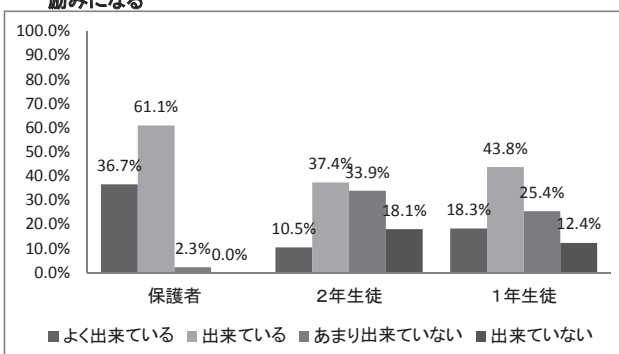
・ 生徒の中でも、1年生の方が2年生よりも「出来ている」意識は高い。

5 学校での様子やできごとを家の人に伝えている



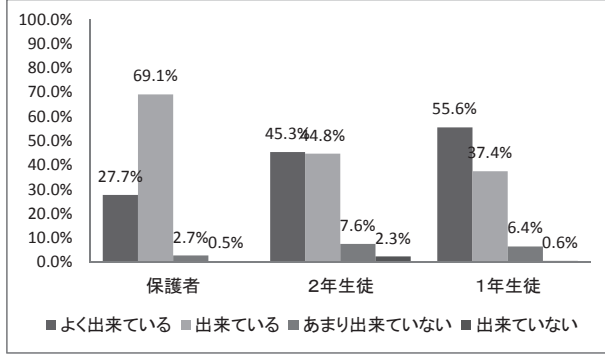
・ 他項目数値に比較して、生徒・保護者とも実現度が低い。
 ・ 生徒ら本人の「出来ている」意識よりも、保護者の意識の方が高い。

6 授業参観や行事など、がんばっている姿を見てもらうことが励みになる



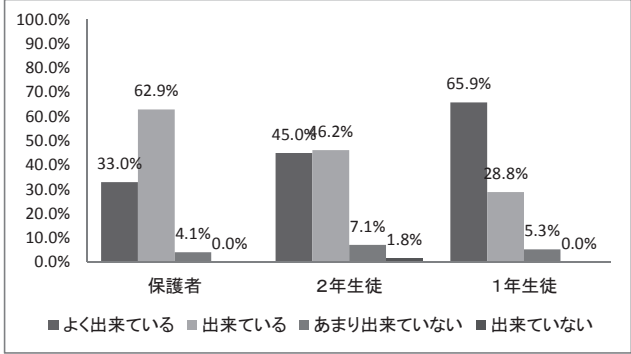
・ 生徒ら本人の「出来ている」意識よりも、保護者の意識の方が高い。
 ・ 生徒の中でも、1年生の方が2年生よりも「出来ている」意識は高い。

7 ルールやきまりは守っている



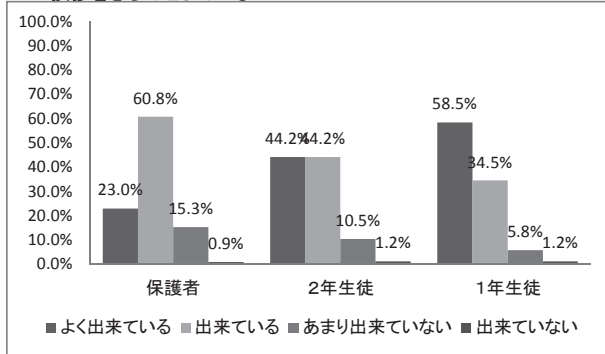
- ・ 生徒・保護者とも、全体的に「守っている」と感じている。
- ・ 生徒の中でも、1年生の方が2年生よりも「出来ている」意識は高い。

8 委員会・系の活動をしっかりしている



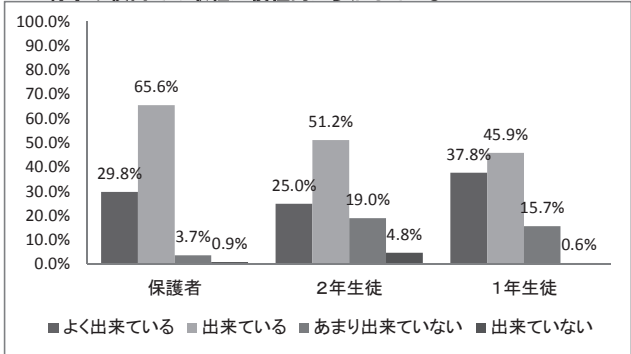
- ・ 生徒・保護者とも、全体的に「しっかりしている」と感じている。
- ・ 生徒の中でも、1年生の方が2年生よりも「出来ている」意識は高い。

9 挨拶をきちんとしている



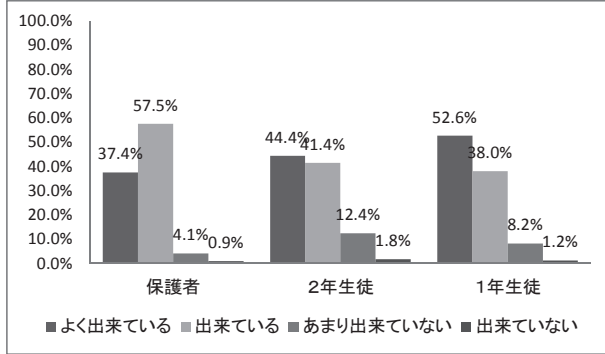
- ・ 生徒の中でも、1年生の方が2年生よりも「出来ている」意識は高い。

10 行事や校内での取組に積極的に参加している



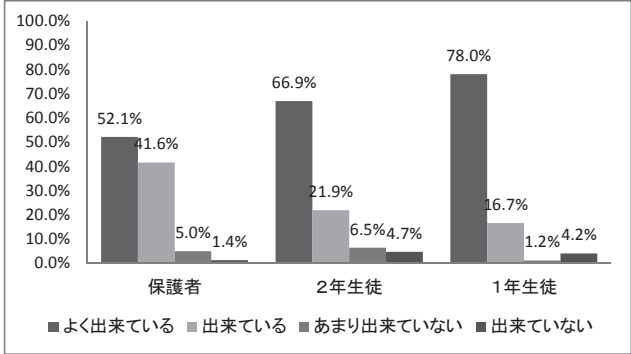
- ・ 生徒ら本人の「出来ている」意識よりも、保護者の意識の方が高い。
- ・ 生徒の中でも、1年生の方が2年生よりも「出来ている」意識は高い。

11 学校生活は充実している



- ・ 生徒・保護者とも、全体的に「学校生活は充実している」と感じている。

12 部活動をがんばっている



- ・ 生徒・保護者とも、全体的に「部活動をがんばっている」と感じている。

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(桃山中学校)

1

1 回目評価

分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	本時の目標を明確にした授業の充実 言語活動の充実を目指し授業の充実	95%の生徒・保護者が「できている」以上と回答 一方、聞く・話すの態度は、90%を上回る事ができなかった。(88.4%)
	家庭学習の習慣化	家庭学習を支える取組の工夫と充実	教師の自己分析で、「できている」以上が76.2%と高い評価をしている
	読書の習慣化	朝読書の定着	ほぼ全生徒が落ち着いて朝読書に取り組み、教師の自己評価では80.0%にとどまった。
	「公共の精神」に基づく態度の育成	道徳の時間を中心とした道徳教育の推進	95%以上の生徒・保護者が「できている」以上と回答(95.1%)
豊かな心	自主自律心の向上	生徒会活動、委員会活動の充実	95%以上の生徒・保護者が「できている」以上と回答(95.5%)
	美化活動の推進	校内美化活動の推進	生徒・保護者・教職員ともに「できている」以上の回答が90%をこえる事ができなかった。(88.7%)
健全な体	自他を大切にす態度の育成	あいさつ運動の展開	生徒・教職員の「よくできている」以上の回答は共に90%で保護者よりも高い
	体力の向上	心身を鍛える部活指導	年間4回の小中合同研修会を実施(3回は授業研修を含む)
独自の項目	小中一貫教育の推進	「小中一貫の道徳教育の推進方法」の研究を軸に連携小中合同研修会	HPではリアルタイムで情報発信ができています。各団体との連携をさらに深めていくための工夫が必要である。
	情報発信の充実	ホームページの充実	HPの内容の充実とアップの体制の強化、各団体との連携の充実

自己評価	評価日	評価者・組織	運営委員会
自己評価	平成28年9月29日(木)	評価者・組織	運営委員会
アンケート実施結果、その他指標の結果について整理			分析を踏まえた改善策
分析(成果と課題)			「チャイムで授業が始まる(終わる)」「本時の目標を提示しねむらひを明確にする」「振り返りを意識し授業を工夫・展開し、わかる授業を心がけていること」が効果にも現れている。
アンケート結果・各種指標結果			「朝読書以外にも、図書室を使った授業を推進し、本と親しむ学習機会の工夫をすすめる。」
95%の生徒・保護者が「できている」以上と回答			「道徳の授業について工夫を重ね、自身の充実を図る」
教師の自己分析で、「できている」以上が76.2%と高い評価をしている			「生徒会活動、委員会活動を充実させ、生徒の自主性や自律心を育てていく」
ほぼ全生徒が落ち着いて朝読書に取り組み、教師の自己評価では80.0%にとどまった。			「掃除をさげば生徒もなくなり、絶対にしてあげなければならないことへの意識の高まりを生徒に求めたい。教職員集団の意識が必要である。」
95%以上の生徒・保護者が「できている」以上と回答(95.1%)			「道徳の授業を中心に、様々な教育活動において道徳教育を推進していくことと意識し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的な意識を高め、より重視していく」
95%以上の生徒・保護者が「できている」以上と回答(95.5%)			さらに生徒を主人公にした、生徒に企画・計画・実行させる取組を工夫し、その機会を増やしていく必要がある。
生徒・保護者・教職員ともに「できている」以上の回答が90%をこえる事ができなかった。(88.7%)			普段の生活の中で、絶対にしてあげなければならないことへの意識の高まりを生徒に求めたい。教職員集団の意識が必要である。
生徒・教職員の「よくできている」以上の回答は共に90%で保護者よりも高い			「道徳的ないいさつに終わらず、あいさつして気持ちがいい」という美意のあいつつに移行していきたい。
年間4回の小中合同研修会を実施(3回は授業研修を含む)			「道徳をテーマに取り組むことで、教職員が率先して挨拶への意識を高め、当たり前に気持ちよく挨拶のできる生徒を増やす取組を進めていく。」
HPではリアルタイムで情報発信ができています。各団体との連携をさらに深めていくための工夫が必要である。			「今年道徳教育をさらに推進すること、小中連携をも着実に取り組んでいく。」
HPの内容の充実とアップの体制の強化、各団体との連携の充実			「さらにHPをタイムリーにその内容や保護者に親しみを感じてもらえるように、HPを充実させること、見る人も増やしていく。」

学校関係者評価	評価日	評価者	学校運営協議会
学校関係者による意見	平成28年10月11日(火)	評価者(いすれかに○)	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
「すべての子どもの学力向上に向けて、さらに取組を推進してほしい。」			「土曜学習サポート部会」としての学生ボランティア確保の取組強化
「読書好きの生徒が多いのは良いことで、今後も良い習慣を大切にしてほしい。」			「図書好きな生徒が多いのは良いことで、今後も良い習慣を大切にしてほしい。」
「電車マナー等がよく問題にされているが、学校に生じるだけでなく、業は保護者の責任であり、地域が支えるべきものである。」			「道徳教育企画部会」による本校道徳研究への具体的なサポートの体制づくりに。
「生徒が主役となっており、活動の多いことは素晴らしいことで、ますます生徒による自治をすすめていくべきである。」			「お城まつり」「防災訓練」「音楽のつどい」や地域のイベントなどに子ども・生徒の活躍の場をつくってほしい。
「古い新しいはなくなり、きれいな学校にしたい。」			「学校だけが任せるのではなく、地域と連携して指導にあたるための核としての活動。」
「あいさつ運動を地域でも広げてほしい。」			「各種団体にあいさつのできる中学生の存在を意識して関わりを持ってもらうよう協力をお願いします。」
「部活動も熱心に指導してほしい。」			「11月の地生連事業(音楽のつどい)に取り組むことで、地域あがりでの取組になるよう学校運営協議会と連携してほしい。」
「ホームページにも関心をもちたい。」			「ホームページにも関心をもちたい。」

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(桃山中学校)

2 2回目評価

分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度未までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標	・個別評価項目の設定及び各項目にわたる定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定
				・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理
確かな学力	授業改善	本時の目標を明確にした授業の充実 言葉活動の充実 読書の充実	・学校は授業のめあてや課題の提示など、指導方法を工夫し、わかりやすい授業をしている。 ・生徒は、授業で話す・聞くの態度がしっかりとできている。 ・学校は、週末課題など、家庭学習の定着に向けた取組を行っている。 ・年間通じての朝読書に取り組んでいる。	アンケート結果・各種指標結果 90%の生徒・保護者が「できています」以上と回答している。 全国学力・学習状況調査において平均を教員ポイント上回る事ができた。 ほぼ全生徒が落ち着いて朝読書に取り組んでいる実態がある。 95%以上の生徒・保護者が「できています」以上と回答している。 95%以上の生徒・保護者が「できています」以上と回答している。 生徒・保護者の「よくてきている」以上の回答は共に90%で教員より高い。
	家庭学習の習慣化	家庭学習を支える取組の工夫と充実	・朝読書の定着	・道徳の授業を中心、様々な教育活動において道徳教育を推進していくこととを再確認し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的意義づけも原直していく。道徳の教科化に向けて実践を積み重ね、準備を進めていく。
	読書の習慣化	朝読書の定着	・年間通じての朝読書に取り組んでいる。	・道徳の授業を中心、様々な教育活動において道徳教育を推進していくこととを再確認し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的意義づけも原直していく。道徳の教科化に向けて実践を積み重ね、準備を進めていく。
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	道徳の時間を中心とした道徳教育の推進	・学校はルールやまきりを守ることを大切にされた教育を進めている。 ・学校は生徒会・委員会、部活動の取組を活発に行っている。 ・学校は美化活動にしっかりと取り組んでいる。 ・学校は学校施設や設備の管理・改善にしっかりと取り組んでいる。	・道徳の授業を中心、様々な教育活動において道徳教育を推進していくこととを再確認し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的意義づけも原直していく。道徳の教科化に向けて実践を積み重ね、準備を進めていく。
	自主自律心の向上	生徒会活動、委員会活動の充実	・学校は生徒会・委員会、部活動の取組を活発に行っている。 ・学校は美化活動にしっかりと取り組んでいる。 ・学校は学校施設や設備の管理・改善にしっかりと取り組んでいる。	・道徳の授業を中心、様々な教育活動において道徳教育を推進していくこととを再確認し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的意義づけも原直していく。道徳の教科化に向けて実践を積み重ね、準備を進めていく。
健やかな体	自他を大切にす態度の育成	あいさつ運動の展開	・学校はしつかりとあいさつのできる生徒を育成している。 ・生徒は部活動に積極的に参加し、がんばっている。	・道徳の授業を中心、様々な教育活動において道徳教育を推進していくこととを再確認し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的意義づけも原直していく。道徳の教科化に向けて実践を積み重ね、準備を進めていく。
	体力の向上	心身を鍛える部活指導	・生徒は部活動に積極的に参加し、がんばっている。	・道徳の授業を中心、様々な教育活動において道徳教育を推進していくこととを再確認し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的意義づけも原直していく。道徳の教科化に向けて実践を積み重ね、準備を進めていく。
独自の項目	小中一貫教育の推進	「小中一貫の道徳教育の推進方法」の研究を軸に連携小中合同研修会	・学校はホームページやお知らせで学校の様子や出来事を伝えていく。 ・学校は、授業や行事の参観・懇談会など、子ども様子を伝える機会を適切に設定している。	・道徳をテーマに取り組み、小中合同研修会を実施(3回は授業研修を含む)の強化、各団体の連携の充実。
	情報発信の充実	ホームページの充実	・学校はホームページやお知らせで学校の様子や出来事を伝えていく。 ・学校は、授業や行事の参観・懇談会など、子ども様子を伝える機会を適切に設定している。	・道徳をテーマに取り組み、小中合同研修会を実施(3回は授業研修を含む)の強化、各団体の連携の充実。

自己評価	評価日	平成29年1月31日	評価者・組織	運営委員会	分析 (成果と課題)	・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理
						アンケート結果・各種指標結果 90%の生徒・保護者が「できています」以上と回答している。 全国学力・学習状況調査において平均を教員ポイント上回る事ができた。 ほぼ全生徒が落ち着いて朝読書に取り組んでいる実態がある。 95%以上の生徒・保護者が「できています」以上と回答している。 95%以上の生徒・保護者が「できています」以上と回答している。 生徒・保護者の「よくてきている」以上の回答は共に90%で教員より高い。
自己評価	評価日	平成29年2月21日	評価者	学校運営協議会 学校評議員 学校評議員	学校関係者による意見 (いずれかに○)	・道徳の授業を中心、様々な教育活動において道徳教育を推進していくこととを再確認し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的意義づけも原直していく。道徳の教科化に向けて実践を積み重ね、準備を進めていく。
						・道徳の授業を中心、様々な教育活動において道徳教育を推進していくこととを再確認し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的意義づけも原直していく。道徳の教科化に向けて実践を積み重ね、準備を進めていく。

学校関係者評価	評価日	平成29年2月21日	評価者	学校運営協議会 学校評議員 学校評議員	学校関係者による意見 (いずれかに○)	・道徳の授業を中心、様々な教育活動において道徳教育を推進していくこととを再確認し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的意義づけも原直していく。道徳の教科化に向けて実践を積み重ね、準備を進めていく。
						・道徳の授業を中心、様々な教育活動において道徳教育を推進していくこととを再確認し、生徒会活動や美化活動など各活動における道徳的意義づけも原直していく。道徳の教科化に向けて実践を積み重ね、準備を進めていく。

3 総括・次年度の課題

・学力向上に関しては、「本時の目標を提示しねらいを明確にする」「振り返りで本時の学習を押しさえる」ことを学校全体で取り組み、生徒の意識や学力結果でも一定の成果が現れつつある。まだまだ改善・向上すべき点も多く、継続して学力向上を目指した取組を進めていかなければならない。

・道徳教育の推進については本年度の文科省委託事業を起点に教科化に向けた取組をすすめることとともにも桃山4校の取組も活発に行うことができた。規範意識の醸成、自主自律心の向上に向けて教育活動全体を有機的な関連づけを推進していかなければならない。

・学校運営協議会と連携して、第3グラウンドの芝生化という具体的取組を行うことができた。さらに他の専門部会の取組を具体化し、学校・家庭・地域で生徒の健全育成に向けた取組を進めていく。

・学校HPと学校発、PTA発のメール配信の活用を積極的に行い、保護者・地域への情報発信をきめ細かく行っていく必要がある。生きた情報が桃山地域に発信され、それに地域が期待する環境を作っていきたい。

